

PC-MAPPING Ver.8

地籍フォーマット 2000 データ作成キット説明書

平成 16 年 4 月
平成 18 年 3 月(改訂)
平成 27 年 4 月(改訂)
平成 30 年 2 月(改訂)
令和 3 年 4 月(改訂:Ver.8 対応)
令和 5 年 4 月(改訂)

株式会社 マプコン

目次

1. インストール	2
2. 構成	3
2.1. メニュー	3
2.2. プロジェクト構成	4
2.3. レイヤー構成	6
2.3.1. 筆図形	6
2.3.2. 筆界点	8
2.3.3. 図根点	9
2.3.4. 仮行政界線	10
2.3.5. 地図番号	11
2.4. データベース構成	12
2.4.1. 地図番号	12
2.4.2. 字コードテーブル	13
2.4.3. 筆 ID テーブル	14
2.4.4. 筆属性	15
2.4.5. 筆・地図番号対応表	17
2.4.6. 共有者	18
2.4.7. 筆界未定	19
2.4.8. メタデータ	21
2.5. その他	24
2.5.1. プロジェクトの[メモ]	24
2.5.2. 描画パラメーター	26
3. 機能	28
3.1. 新規プロジェクト	28
3.2. エクスポート	30
3.3. 地籍旧フォーマットデータ	33
3.3.1. 地籍(旧)国土庁フォーマットインポート	33
3.3.2. 全角文字フィールド処理の特例	37
3.3.3. 所有者情報の解析と編集について	38
3.3.4. 新フォーマットとの対応	40
4. コマンド処理	45
5. エラーについて	46
5.1. エラー一覧	46
5.1.1. 共通	46
5.1.2. インポート・複数地区一括インポート・(旧)国土庁フォーマットからのインポート	47
5.1.3. 複数地区一括インポート	48
5.1.4. (旧)国土庁フォーマットからのインポート	49
5.1.5. 新規プロジェクト作成	50
5.1.6. エクスポート	50
6. 更新履歴	53

1. インストール

「地籍フォーマット 2000 作成キット」は、ライセンスにより機能の認識を行いますので、インストールの必要はありません。更新時は、Pcm.exe の更新と同時に行われます。

ライセンスに「地籍フォーマット 2000 作成キット」ライセンスが登録されていれば、起動時に[拡張]-[データ構築]-[地籍フォーマット 2000]メニューが表示されます。

ライセンスは、「PcmCheckLic.exe(ライセンス確認プログラム)」で確認することができます。



データファイル仕様は、「地籍調査必携 2018 年版」(株式会社地球社)記載の「地籍フォーマット 2000 Ver.1.0」に準拠しております。

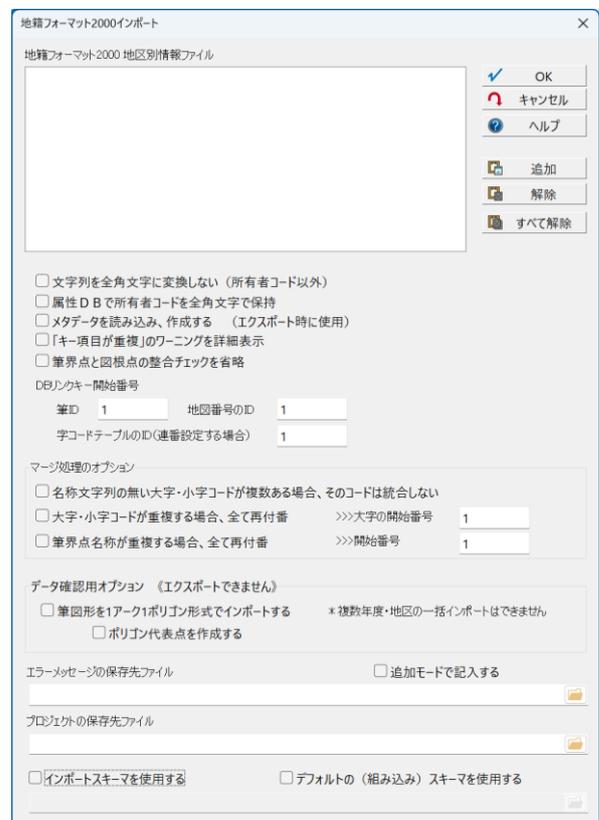
また、『「数値地籍情報の記録形式等について」一部改正について(国土籍 第 553 号 平成 24 年 3 月 21 日)』に対応しております。

！！注意！！

このキットは、地籍フォーマット 2000 の新規作成／エクスポート処理を行なうためのものです。フォーマットの不具合を検証する検査システムではありません。

※インポートは、PC-MAPPING の標準機能([インポート]-[総務省・法務省]-[地籍フォーマット 2000 データ])で行います。

各パラメーターの指定内容は、PC-MAPPING のヘルプをご覧ください。



2. 構成

2.1.メニュー

[拡張]-[データ構築]-[地籍フォーマット 2000]メニューから実行します。



地籍フォーマット 2000 新規プロジェクト

市区町村コード、座標情報などを指示して、スケルトンの PC-MAPPING プロジェクトを作成します。

縮尺と図郭座標が標準の場合(任意の縮尺、任意の図郭でない場合)は、「地図番号」レイヤーと「地図番号」データベースのデフォルトデータが作成されます。

『地区別情報ファイル』の情報は、ダイアログに入力した内容がプロジェクトの[プロジェクトエキスパート]- [メモ] パネルに転記されます。

地籍フォーマット 2000 エクスポート

現在開いている、PC-MAPPING で作成・編集したデータを、地籍フォーマット 2000 のファイルとして出力します。

『地区別情報ファイル』の必要な情報は、プロジェクトの[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルから転記されます。

地籍旧フォーマットデータ

既存の地籍(旧)国土庁フォーマットファイルを読み込み、地籍フォーマット 2000 形式の PC-MAPPING のデータに変換します。

※このインポート結果をエクスポートするためには、データの追加や変更が必要です。

2.2.プロジェクト構成

地籍フォーマット 2000 データ作成用プロジェクトは以下の内容となっています。

<例>市区町村名が「まぶこん町」の場合

プロジェクト名		まぶこん町	
レイヤー名・データベース名	種類	地籍フォーマット 2000 データファイル	内容
筆図形	NAV	筆・長狭物図形情報ファイル 筆界点情報ファイル	筆や長狭物の形状を構造化ポリゴンとして持つ。 インポート時、座標値は『筆界点情報ファイル』から採用される。 エクスポート時、座標値で筆界点レイヤーのポイントを検索する。 筆界点の XY 座標以外の情報(名称など)は、当レイヤーには持たない。
筆界点	NAV	筆界点情報ファイル	筆界点をポイントとして持つ。
図根点	NAV	図根点情報ファイル	基本三角点、基本水準点、四等三角点、地籍図根三角点、地籍図根多角点、細部図根点等をポイントとして持つ。
仮行政界線	NAV	仮行政界線情報ファイル 筆界点情報ファイル	仮行政界線の形状をアークとして持つ。 インポート時、座標値は『筆界点情報ファイル』から採用される。 エクスポート時、座標値で筆界点レイヤーのポイントを検索する。 筆界点の XY 座標以外の情報(名称など)は、当レイヤーには持たない。
地図番号	NAV	地図番号情報ファイル	地図番号ごとの図郭の形状を 1 アーク 1 ポリゴン形式で持つ。
地図番号	NDV	地図番号情報ファイル	地図番号レコード毎に 1 レコード。
字コードテーブル	NDV	大字、小字コードを持つ 全てのファイル	大字、小字コードと名称の対応を当 DB で一元管理する。
筆 ID テーブル	NDV	大字+小字+地番を持つ 全てのファイル	「大字+小字+地番」を当 DB で一元管理する。 「大字+小字+地番」に対してユニークな ID(筆 ID)を附番する。 他の全ての「大字+小字+地番」を持つ内部属性 DB では、筆 ID をリンクキーとして持ち、当 DB の大字、小字、地番を参照する。
筆属性	NDV	筆属性情報ファイル	筆や長狭物などのポリゴン図形を有する土地の属性情報。 筆属性レコード 1 つ毎に 1 レコード。
筆・地図番号対応表	NDV	筆属性情報ファイル	筆とその筆が存在する地図番号の情報。 筆属性情報の地図番号ごと(筆属性レコード N ごと)に 1 レコード。 筆ごとの地図番号数が一定でないため、筆属性 DB とは別 DB で管理する。
共有者	NDV	共有者情報ファイル	土地の共有者に関する属性情報。 所有者ごと(共有者レコード N ごと)に 1 レコード。
筆界未定	NDV	筆界未定構成 筆属性情報ファイル	筆界未定地を構成する筆や長狭物などの土地の属性情報。 筆界未定構成筆ごと(筆界未定構成筆属性レコード N ごと)に 1 レコード。
メタデータ	NDV	メタデータファイル	メタデータのデータ項目ごとに原則として 1 レコード。 他の DB、ベクターデータとのリンク関係はない。 メタデータファイル作成時以外は不要。

ファイル構成

「地籍フォーマット 2000」は、CSV 形式の ASCII ファイルで、構成と個々の拡張子は下記の通りです。

- 地区別情報ファイル.hed
- 地図番号情報ファイル.map
- 筆界点情報ファイル.pnt
- 筆長狭物図形情報ファイル.pol
- 筆属性情報ファイル.atr
- 共有者情報ファイル.cos
- 筆界未定構成筆属性情報ファイル.und
- 仮行政界線情報ファイル.lin
- 図根点等情報ファイル.tcp
- 国土調査登記情報ファイル.txt

特記事項

- 『国土調査登記情報ファイル』は、サポートしていません。
- 『地区別情報ファイル』データは、プロジェクトのメモに保持されます。
ただし、座標系番号と測地系は各レイヤーの[座標情報]で設定します。
- 各レイヤーの座標情報は共通です。インポート時、レイヤーの図郭は「地図番号情報ファイル」の地籍図の図郭を包含する矩形が設定されます。
- PC-MAPPING の各属性フィールド名は、独自に設定するリンクキーや描画キー等を除いて、原則として『地籍フォーマット 2000 データ』のデータ項目名に対応しています。

2.3.レイヤー構成

各レイヤー構成を説明します。

属性フィールドの定義内容で

- **青字**: 独自に設定する(地籍フォーマット 2000 データのデータ項目に直接対応しない)フィールド
- **緑色**: レコードの対応関係を示す為の参考用リンクフィールド
- **赤色**: 「複数地区一括インポート」で、入力ファイル記載の値と異なる値を設定する可能性があるフィールド

2.3.1.筆図形

アーク



PC-MAPPING のフィールド名	データ型	備考
線分種別	整数型	描画キー
右側筆 ID	整数型	インポート時、ポリゴン生成エラーがあった場合に該当ポリゴンの筆 ID が参考用に作成される。 エクスポートでは不要。
左側筆 ID	整数型	インポート時、ポリゴン生成エラーがあった場合に該当ポリゴンの筆 ID が参考用に作成される。 エクスポートでは不要。

ポリゴン

レイヤーエキスパート (筆図形)

表示設定①

前景 (編集可) 背景へコピー 内部ID

フィル 低位 (背景イメージの上、線形の) 代表点 代表点に表示

面積 周長 拡張パターン 横並びで表示(H)

エンロン代表表示 画面回転に連動しない サイズ固定(E) 選択強調表示なし

表示フォント(F) Yu Gothic UI 10 Point A 参照(B)... 「拡張グラフィックス」を連動しない

縮尺による表示制御

縮尺が 1 / 0 以上 1 / 0 以下で表示

内部属性

	フィールド名	フィールド型	表示	主描画	従描画	
1	筆ID	整数型				
2	大字コード	整数型				
3	小字コード	整数型				
4	大字名称	文字型				
5	小字名称	文字型				
6	地番	文字型				
7	地目	整数型	<input checked="" type="checkbox"/>			

スクロールロック(L)

なし

追加(A)...

削除(D)

更新(U)...

リンクフィールドの一括追加...

メモ・キーリスト >>

初期値(I)...

表示制御(P)...

参照する描画パラメータセット(E) 地籍フォーマット2000

プロジェクトエキスパート >> OK キャンセル ヘルプ

PC-MAPPING の フィールド名	データ型	備考
筆 ID	整数型	リンクキー。 0 以下の値は無効データとする
大字コード	整数型	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字コード	整数型	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
大字名称	文字型	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字名称	文字型	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地番	文字型	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地目	整数型	「筆属性」とデータベースリンク他フィールド参照 描画キー エクスポートでは不要

2.3.2.筆界点

ポイント

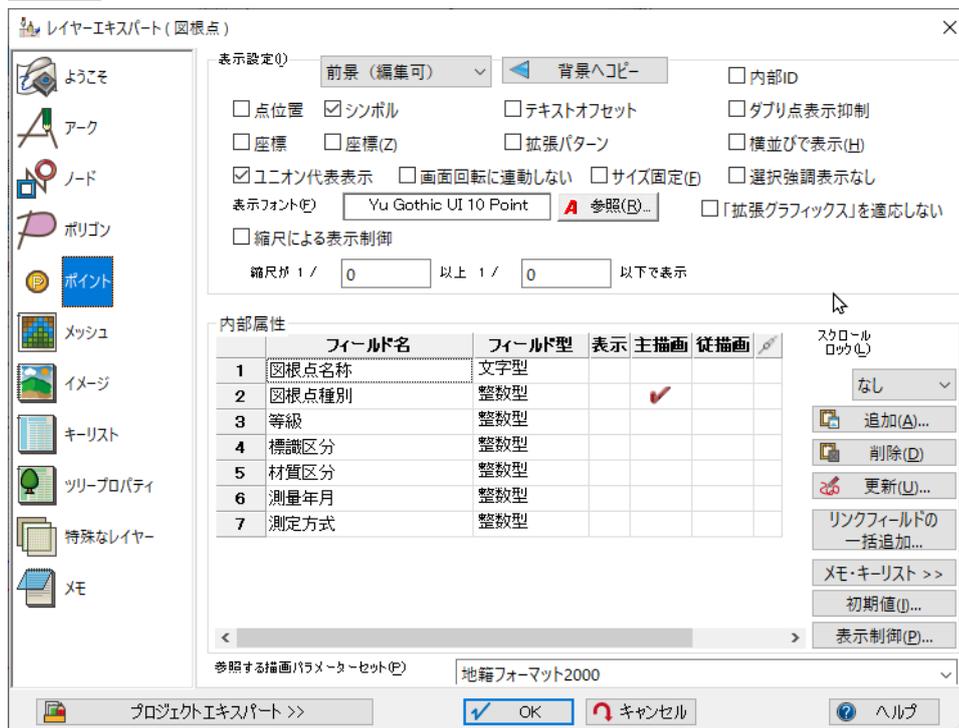


PC-MAPPINGの フィールド名	データ型	備考
筆界点名称	文字型	筆を構成する境界点の名称または番号
筆界点区分	整数型	点の種類 (1:筆界点、2:図郭点、3:折れ点)
標識区分	整数型	点の標識を区分 (1:非埋標、2:筆界基準杭、3:永久標識、4:その他、0:不明)
材質区分	整数型	点の材質を区分 (1:金属標、2:鋳、3:プラスチック、4:コンクリート、5:真鍮、6:アルミプレート、7:石、8:刻印、9:木、10:ペンキ、11:その他、0:不明等)
測量年月	整数型	測量業務を完了した年月 (入力形式:YYYYMM) 例:199706。 0(ゼロ)はデータ無しとする。
測定方式	整数型	測量の方法 (1:図解法、2:数値法、3:航測数値法、4:正射写真図法、5:併用(図解)法、6:併用(数値)法、7:その他、0:不明等)
数値取得方法	整数型	筆界点座標値の取得方法 (1:図上読取、2:実測)
図根点兼用	文字型	地籍図根点等を兼ねた場合の認識項目
筆界点表示区分	整数型	描画キー(計算フィールド:<筆界点区分>+10)

※標高値は、内部属性ではなく、筆界点ポイントの Z 座標値に保持されます。

2.3.3. 図根点

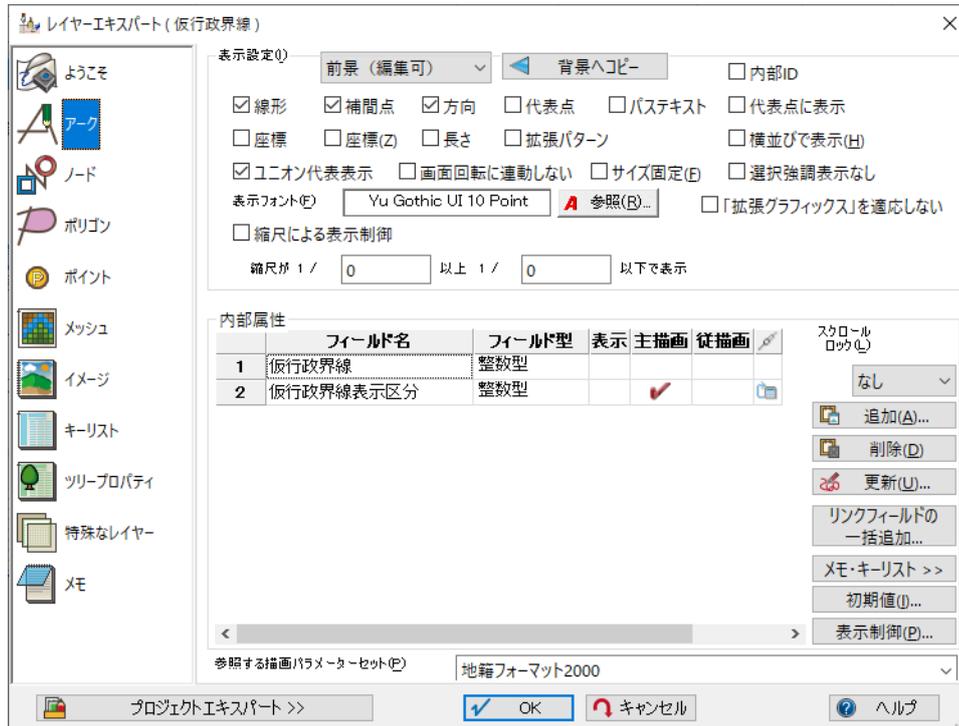
ポイント



PC-MAPPINGの フィールド名	データ型	備考
図根点名称	文字型	図根点等の識別のために付された名称
図根点種別	整数型	図根点等の種別 (1:基本三角点、2:四等三角点、3:標定点、4:地籍図根三角点、5:地籍図根多角点、6:細部図根点、7:その他の図根点、8:航測図根点、9:図解図根点、10:19条2・5項の認証・指示点、0:不明) 描画キー
等級	整数型	図根点等の等級又は次数 (1:1次(1級、1等)、2:2次(2級、2等)、3:3次(3級、3等)、4:4次(4級、4等)、5:5次、0:不明)
標識区分	整数型	図根点等の標識を区分 (1:非埋標、2:本点、3:永久標識、4:その他、0:不明等)
材質区分	整数型	点の材質を区分 (1:金属標、2:鋳、3:プラスチック、4:コンクリート、5:真鍮、6:アルミプレート、7:石、8:刻印、9:木、10:ペンキ、11:マンホール利用、12:その他、0:不明等)
測量年月	整数型	測量業務を完了した年月 (入力形式:YYYYMM) 例:199706 0(ゼロ)はデータ無しとする。
測定方式	整数型	測量の方法 (1:地上法、2:航測法、3:GPS法、4:その、0:不明)

2.3.4.仮行政界線

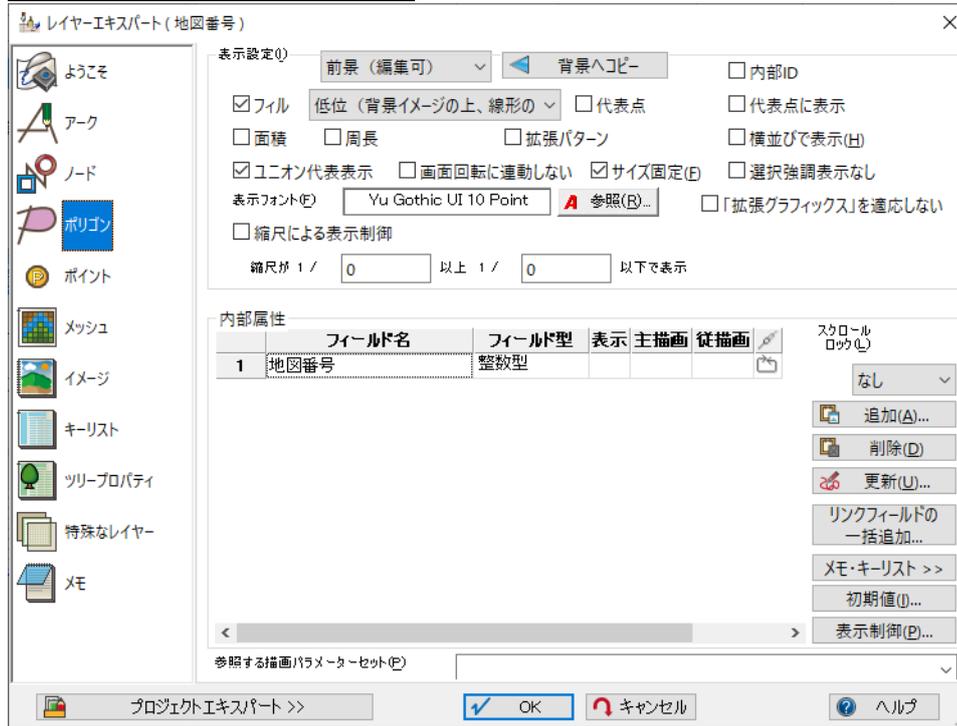
アーク



PC-MAPPING の フィールド名	データ型	備考
仮行政界線	整数型	仮行政界等公法上に存在しない線 (1:仮小字界線、2:仮大字界線、3:仮市区町村界線)
仮行政界線表示区分	整数型	描画キー(計算フィールド:<仮行政界線>+10) エクスポートでは不要

2.3.5.地図番号

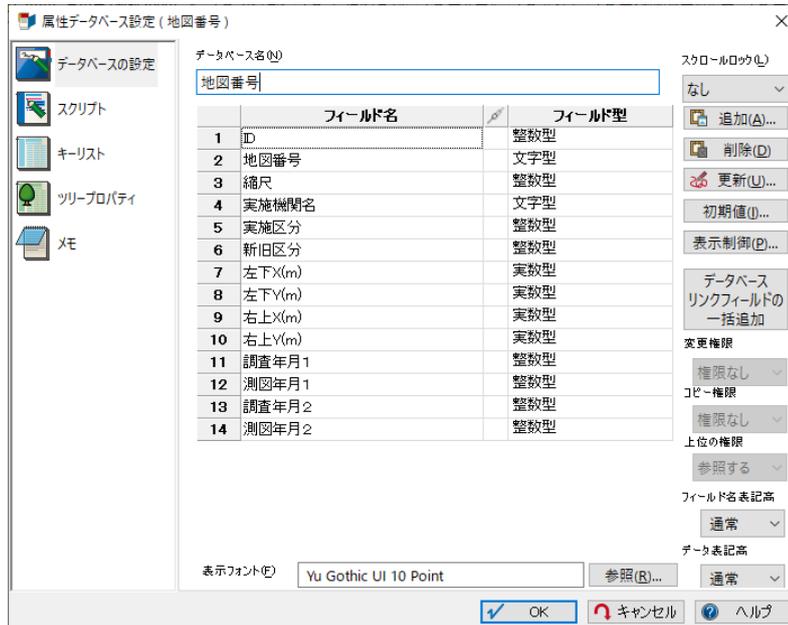
ポリゴン(1 アーク 1 ポリゴン形式)



PC-MAPPING の フィールド名	データ型	備考
地図番号	整数型	「地図番号」とデータベースリンク

2.4.データベース構成

2.4.1.地図番号



PC-MAPPING のフィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
ID	整数型		プロジェクト内でユニークな 1 以上の値である事 インポート時には連番が自動設定される
地図番号	文字型	地図番号	地籍図の番号
図葉コード	文字型		(旧)国土庁フォーマットからインポートの場合のみ作成
縮尺	整数型	縮尺	地籍図の縮尺
実施機関名	文字型	実施機関名	地籍調査を実施した機関名
実施区分	整数型	実施区分	データ情報源の区分 (1: 国土調査法に基づく地籍図、2: 公共測量による確定図、3: 土地改良の確定図、4: 土地区画整理事業、5: 民間事業、6: その他)
新旧区分	整数型	地図番号の新旧区分	区分 (1: 既存の区画番号、2: 世界測地系対応の区画番号)
左下 X(m)	実数型	図郭左下 X 座標	m 単位で小数点以下 3 桁
左下 Y(m)	実数型	図郭左下 Y 座標	m 単位で小数点以下 3 桁
右上 X(m)	実数型	図郭右上 X 座標	m 単位で小数点以下 3 桁
右上 Y(m)	実数型	図郭右上 Y 座標	m 単位で小数点以下 3 桁
調査年月 1	整数型	調査年月 (1)	一筆地を調査した年月 (入力形式: YYYYMM)
測図年月 1	整数型	測図年月 (1)	一筆地を測図した年月 (入力形式: YYYYMM)
:	:	:	* 「調査年月 2」以降は省略可能
調査年月 N	整数型	調査年月 (N)	* インポートでは最大 10 まで保持
測図年月 N	整数型	測図年月 (N)	* インポートでは最大 10 まで保持

2.4.2.字コードテーブル

属性データベース設定 (字コードテーブル)

データベース名 (D)

スクロールロック (L) なし

	フィールド名	フィールド型
1	ID	整数型
2	大字コード	整数型
3	小字コード	整数型
4	名称	文字型

追加(A)... 削除(D) 更新(U)... 初期値(I)... 表示制御(P)...

データベースリンクフィールドの一括追加

変更権限 権限なし

コピー権限 権限なし

上位の権限 参照する

フィールド名表記高 通常

データ表記高 通常

表示フォント (F) 参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ

PC-MAPPING のフィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
ID	整数型		<p>インポート時は大字コードと小字コードから算出した値を設定、計算式は小字コード桁数による</p> <p>・4桁の例</p> <p><大字コード>*10000+<小字コード></p> <p>プロジェクト内でユニークな1以上の値であること</p> <p>筆IDテーブルでは、このIDを持って、この大字、小字コードと名称を参照する</p> <p>その他の内部属性・DBからは、筆IDテーブルを介して(多重リンクで)参照される</p>
大字コード	整数型	大字コード	当該筆等の属する大字のコード
小字コード	整数型	小字コード	当該筆等の属する小字のコード 大字名称のレコードでは0(ゼロ)
名称	文字型	大字名称/小字名称	当該筆等の属する大字、または小字の名称

2.4.3.筆 ID テーブル

属性データベース設定 (筆IDテーブル) ×

データベース名 (D)
 筆IDテーブル

スクロールロック (L)
 なし

	フィールド名	フィールド型
1	筆ID	整数型
2	大字コード	整数型
3	小字コード	整数型
4	大字名称	文字型
5	小字名称	文字型
6	地番	文字型

追加(A)...
削除(D)
更新(U)...
初期値(I)...
表示制御(P)...

データベース
リンクフィールドの
一括追加

変更権限
権限なし

コピー権限
権限なし

上位の権限
参照する

フィールド名表記高
通常

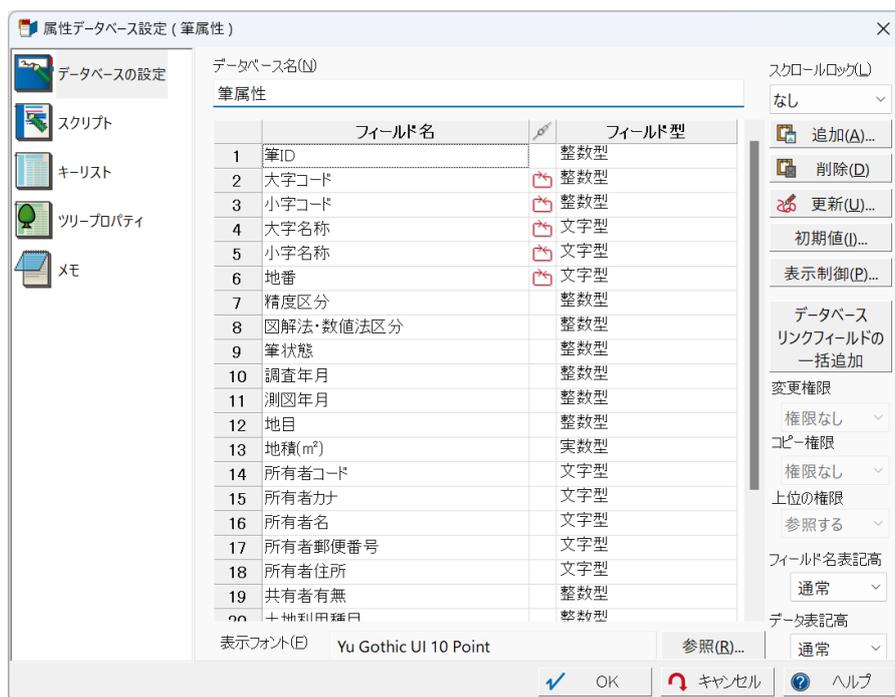
データ表記高
通常

表示フォント (F)
 Yu Gothic UI 10 Point
 参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ

PC-MAPPING の フィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
筆 ID	整数型		プロジェクト内でユニークな 1 以上の値である事 インポート時には連番が自動設定される
大字コード	整数型	大字コード	「字コードテーブル」とデータベースリンク
小字コード	整数型	小字コード	「字コードテーブル」とデータベースリンク
大字名称	文字型	大字名称	「字コードテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字名称	文字型	小字名称	「字コードテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地番	文字型	地番	筆等の地番 同一大字コード&小字コードの範囲で重複不可

2.4.4.筆属性



PC-MAPPINGの フィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000のデータ項目	備考
筆ID	整数型		リンクキー。 1以上の値で重複不可
大字コード	整数型	大字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字コード	整数型	小字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
大字名称	文字型	大字名称	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字名称	文字型	小字名称	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地番	文字型	地番	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
精度区分	整数型	精度区分	地籍測量の精度 (1:甲1、2:甲2、3:甲3、4:乙1、5:乙2、6:乙3、0:該当なし)
図解法・数値法区分	整数型	図解法・数値法区分	測量の方法 (1:図解法、2:数値法、3:航測数値法、4:正射写真図法、0:該当なし)
筆状態	整数型	筆状態	土地の確定状況 (1:筆、2:現地確認不能、3:筆界未定地、4:表示登記、5:白地、6:長物狭、7:減失、8:不存在、9:その他)
調査年月	整数型	一筆地調査年月	一筆地を調査した年月 (入力形式:YYYYMM)
測図年月	整数型	一筆地測図年月	一筆地を測図した年月 (入力形式:YYYYMM)
地目	整数型	地目	主たる用途 (1:田、2:畑、3:宅地、4:塩田、5:鉱泉地、6:池沼、7:山林、8:牧場、9:原野、10:墓地、11:境内地、12:運河用地、13:水道用地、14:用悪水路、15:ため池、16:堤、17:井溝、18:保安林、19:公衆用道路、20:公園、21:鉄道用地、22:学校用地、23:雑種地、24:その他、0:不明等、81:道路、82:運河、83:用悪水路、84:堤防、85:みぞ、86:導水管、87:送水管、88:排水管、89:鉄道線路、90:軌道、91:河川、92:その他)
地積(m ²)	実数型	地積	地籍簿の調査後地積
所有者コード	文字型	所有者コード	土地の所有者を表わすコード

所有者カナ	文字型	所有者名カナ	土地の所有者の名称のカナ表現
所有者名	文字型	所有者	土地の所有者
所有者郵便番号	文字型	郵便番号	所有者の住所の郵便番号
所有者住所	文字型	住所	土地の所有者の住所
共有者有無	整数型	共有者情報の有無	0:無、1:有
土地利用種目	整数型	土地利用種目	宅地 (31:住宅地、32:工事用地、33:その他(宅地)) 水道用地 (41:水の貯水池、42:その他(水道用地)) 雑種地 (51:湖、52:河川、53:発電の為の用排水路、54:その他(雑種地)、0:地積調査管理事業以外)
土地所有形態	整数型	土地所有形態	区分 (1:国、2:地方公共団体、3:公共法人、4:民間法人、5:その他の法人、6:個人、7:その他、0:地積調査管理事業以外)
地図番号数	整数型	地図番号数	不明の場合:0
地図番号	文字型	地図番号	「筆・地図番号対応表」とデータベースリンク エクスポートでは不要
共有者	文字型		「共有者」とデータベースリンク エクスポートでは不要
筆界未定構成筆・地番	文字型		「筆界未定地・筆ID」とデータベースリンク エクスポートでは不要

2.4.5.筆・地図番号対応表

属性データベース設定 (筆・地図番号対応表)

データベース名(N)

	フィールド名	フィールド型
1	筆ID	整数型
2	SEQ	整数型
3	地図番号	整数型

スタートロール(L)

追加(A)...

削除(D)

更新(U)...

初期値(I)...

表示制御(P)...

データベースリンクフィールドの一括追加

変更権限

コピー権限

上位の権限

フィールド名表記高

データ表記高

表示フォント(F) 参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ

PC-MAPPING の フィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
筆 ID	整数型		リンクキー 該当する筆属性 DB レコードと対応する
SEQ	整数型		エクスポートでは不要
地図番号	文字型		「地図番号」とデータベースリンク

2.4.6.共有者

フィールド名	フィールド型
1 筆ID	整数型
2 大字コード	整数型
3 小字コード	整数型
4 大字名称	文字型
5 小字名称	文字型
6 地番	文字型
7 共有者数	整数型
8 SEQ	整数型
9 所有者コード	文字型
10 所有者カナ	文字型
11 所有者名	文字型
12 所有者郵便番号	文字型
13 所有者住所	文字型
14 持分分子	整数型
15 持分分母	整数型
16 コメント	文字型

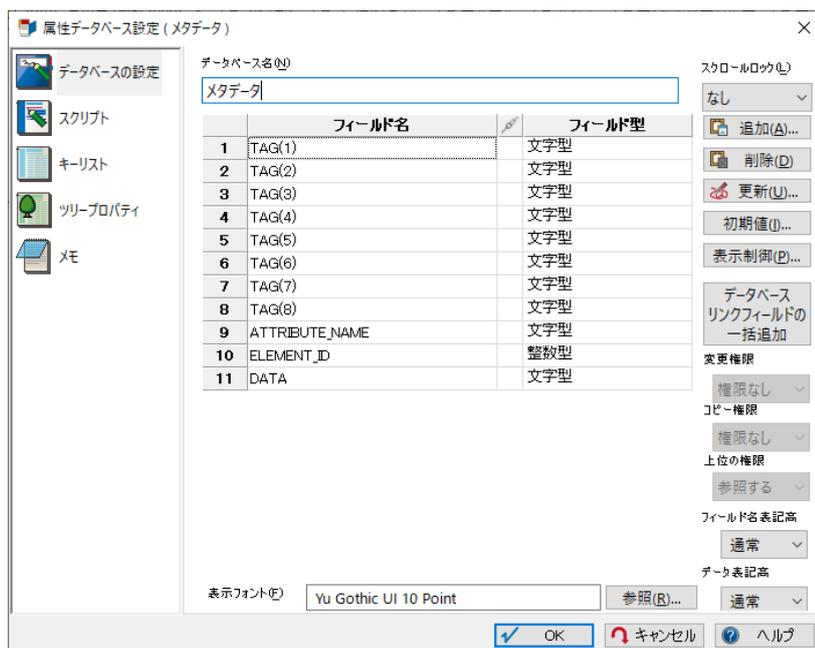
PC-MAPPING の フィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
筆 ID	整数型		リンクキー
大字コード	整数型	大字コード	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字コード	整数型	小字コード	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
大字名称	文字型	大字名称	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字名称	文字型	小字名称	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地番	文字型	地番	「筆 ID テーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
共有者数	整数型		エクスポートでは不要
SEQ	整数型		エクスポートでは不要
所有者コード	文字型	所有者コード	土地の所有者を表わすコード
所有者カナ	文字型	所有者名カナ	土地の所有者の名称のカナ表現
所有者名	文字型	所有者	土地の所有者
所有者郵便番号	文字型	郵便番号	所有者の住所の郵便番号
所有者住所	文字型	住所	土地の所有者の住所
持分分子	整数型	持分分子	持分の分子。持分不明の場合は 0
持分分母	整数型	持分分母	持分の分母。持分不明の場合は 0
コメント	文字型	備考	共有者名簿の備考欄

2.4.7.筆界未定

PC-MAPPING の フィールド名	データ型	地籍フォーマット 2000 のデータ項目	備考
筆界未定地・筆ID	整数型		リンクキー
筆界未定地・大字コード	整数型	筆界未定地大字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
筆界未定地・小字コード	整数型	筆界未定地小字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
筆界未定地・仮地番	文字型	筆界未定地仮地番	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
未定地番数	整数型	筆界未定地番数	エクスポートでは不要
SEQ	整数型		エクスポートでは不要
筆界未定構成筆・筆ID	整数型		リンクキー。 当DBでの重複および筆属性DBの筆IDとの重複を チェック
大字コード	整数型	大字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字コード	整数型	小字コード	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
大字名称	文字型	大字名称	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
小字名称	文字型	小字名称	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
地番	文字型	地番	「筆IDテーブル」とデータベースリンク他フィールド参照
筆状態	整数型	筆界未定構成筆状態	土地の確定状況 (1:筆、2:白地、3:長狭物、4:除外地、5:他行政区、6:そ の他)
調査年月	整数型	一筆地調査年月	一筆地を調査した年月 (入力形式:YYYYMM)
地目	整数型	地目	主たる用途 (1:田、2:畑、3:宅地、4:塩田、 5:鉱泉地、6:池沼、7:山林、8:牧場、9:原野、 10:墓地、11:境内地、12:運河用地、13:水道用地、14:用 悪水路、15:ため池、16:堤、17:井溝、18:保安林、19:公 衆用道路、20:公園、21:鉄道用地、22:学校用地、23:雑 種地、24:その他、0:不明等、81:道路、82:運河、83:用悪 水路、84:堤防、85:みぞ、86:導水管、87:送水管、88:排

			水管、89:鉄道線路、90:軌道、91:河川、92:その他)
地積(m ²)	実数型	地積	地籍簿の調査後地積
所有者コード	文字型	所有者コード	土地の所有者を表わすコード
所有者カナ	文字型	所有者名カナ	土地の所有者の名称のカナ表現
所有者名	文字型	所有者	土地の所有者
所有者郵便番号	文字型	郵便番号	所有者の住所の郵便番号
所有者住所	文字型	住所	土地の所有者の住所
共有者有無	整数型	共有者情報の有無	0:無、1:有
共有者	文字型		「共有者」とデータベースリンク他フィールド参照 エクスポートでは不要

2.4.8.メタデータ



PC-MAPPING の フィールド名	データ型	備考
TAG (1)	文字型	XML タグを上位の階層から順に記述する。 データ仕様のメタデータ記載例では 8 階層まで存在するが、TAG (9) 以降のフィールドを追加することで、拡張可能。 新規プロジェクト作成では、デフォルトとして、メタデータ記載例に準拠したタグを生成する。 インポート時は、デフォルトのタグ生成に加えて、既存のメタデータファイルにある情報を保持する。
TAG (2)	文字型	
TAG (3)	文字型	
TAG (4)	文字型	
TAG (5)	文字型	
TAG (6)	文字型	
TAG (7)	文字型	
TAG (8)	文字型	
ATTRIBUTE_NAME	文字型	省略可。 メタデータ記載例のデータ構成では使用しない。 要素が属性を持つ場合、属性名称を記述する。 当フィールドに文字列がある場合、そのレコードの DATA は属性値として扱う。
ELEMENT_ID	整数型	要素の区切りを明示するために使用する。 省略可。 当フィールドが無い場合(下記①②に該当するデータが無い場合)は、全てゼロとして処理する。 ①正数: 1 要素の情報を複数の DBレコードで保持する場合、要素ごとにユニークな 1 以上の数値を付番して列記する。 長いデータ文字列を分割して保持する場合、要素属性を持つ場合に使用する(正確には、全体で「ユニーク」でなくとも、前後の要素と異なる値であれば、エクスポートは処理可能)。 エクスポート時は、要素属性以外のデータ文字列は記述順に連結して 1 個の文字列として出力する。 インポート時は、データ文字列が 100 文字程度を超えるものは分割して格納。 ②負数: 中項目(下位要素を持つ要素)を繰り返し記述する場合、中項目相互の区切りとして 1レコード挿入し、当フィールドに負数(ユニークである必要はない)を設定する。
DATA	文字型	要素のデータ、または、要素属性の属性値。 所定のデータ型にかかわらず、全て文字列で記述。 エクスポート時は全て文字列型として出力する。

ELEMENT_ID フィールド使用例

DB と入出力 XML データの対応は下記の通りです。

●DB

フィールド							
Rec No.	TAG (n)	TAG (n+1)	TAG (n+2)	...	ELEMENT_ID	DATA	
	Tag-V	...					
1	Tag-A	Tag-B			0	データ B-1	
2	Tag-A	Tag-C	Tag-X		1	文字列-X-1(その 1)	←文字列を分割して保持
3	Tag-A	Tag-C	Tag-X		1	文字列-X-1(その 2)	
4	Tag-A	Tag-C	Tag-Y		0	データ Y-1	
5	Tag-A	Tag-C	Tag-Z		0	データ Z-1	
6	Tag-A	Tag-C			-1		←中項目の区切り <Tag-C>のレベル ←Rec No.7 と 8 は別々の要素
7	Tag-A	Tag-C	Tag-X		0	文字列-X-2-1	
8	Tag-A	Tag-C	Tag-X		0	文字列-X-2-2	
9	Tag-A	Tag-C	Tag-Y		0	データ Y-2	
10	Tag-A	Tag-C	Tag-Z		0	データ Z-2	
11	Tag-A				-1		←中項目の区切り <Tag-A>のレベル
12	Tag-A	Tag-B			0	データ B-2	
13	Tag-A	Tag-C	Tag-X		0	文字列-X-3	
14	Tag-A	Tag-C	Tag-Y		0	データ Y-3	
15	Tag-A	Tag-C	Tag-Z		0	データ Z-3	
16	Tag-A	Tag-D			0	データ D	
16	Tag-W	...					

TAG (n-1) フィールドまで (<Tag-A> より上位のタグ) は共通とする

●XML ファイル

...

</Tag-V>

<Tag-A>

<Tag-B> データ B-1 </Tag-B>

<Tag-C>

<Tag-X> 文字列-X-1(その 1) 文字列-X-1(その 2)

</Tag-X>

↑Rec No.2 と 3 の文字列を連結して出力

<Tag-Y> データ Y-1

</Tag-Y>

<Tag-Z> データ Z-1

</Tag-Z>

</Tag-C>

←中項目の区切り Rec No.6 に対応

<Tag-C>

Rec No.6 が無いと、この 2 行が生成されない

<Tag-X> 文字列-X-2-1

</Tag-X>

←Rec No.7 と 8 は別々の要素

<Tag-X> 文字列-X-2-2

</Tag-X>

<Tag-Y> データ Y-2

</Tag-Y>

<Tag-Z> データ Z-2

</Tag-Z>

</Tag-C>

</Tag-A>

←中項目の区切り Rec No.11 に対応

<Tag-A>

Rec No.11 が無いと、この 2 行が生成されない

```

    <Tag-B>   データ B-2           </Tag-B>
    <Tag-C>
      <Tag-X>   文字列-X-3           </Tag-X>
      <Tag-Y>   データ Y-3           </Tag-Y>
      <Tag-Z>   データ Z-3           </Tag-Z>
    </Tag-C>
    <Tag-D>   データ D             </Tag-D>
  </Tag-A>
  <Tag-W>
  ...

```

メタデータに関する注意事項

- 同一タグで複数の要素がある場合は、TAG フィールドが同一の DB レコードを必要数列記します。
- エクスポート時は、DB レコードの記述順に出力します。
- インポート時、デフォルトのタグ構成以外が現れた場合は、その階層レベルに保持されますが、挿入位置は元の並び順を保証しません。また、複数地区一括インポートでは、各地区のファイルからのデータを列記します。よって、一般に、**インポート結果については確認の上で適宜編集が必要**となります。
- コメントはサポートしておりません。インポート時にコメントは無視されます。
- タグ、属性名称、データ文字列は、大文字・小文字を区別しないで解析されます。
- エクスポート時、下記の項目に該当する TAG フィールドの記述がある場合は、DBレコードの DATA フィールドの記述に関わらず作成したデータファイル名に従って設定されます。

メタデータファイル識別子 "catalogue"-"meta_file_id"

配布データ識別子 "catalogue"-"distrib_id"

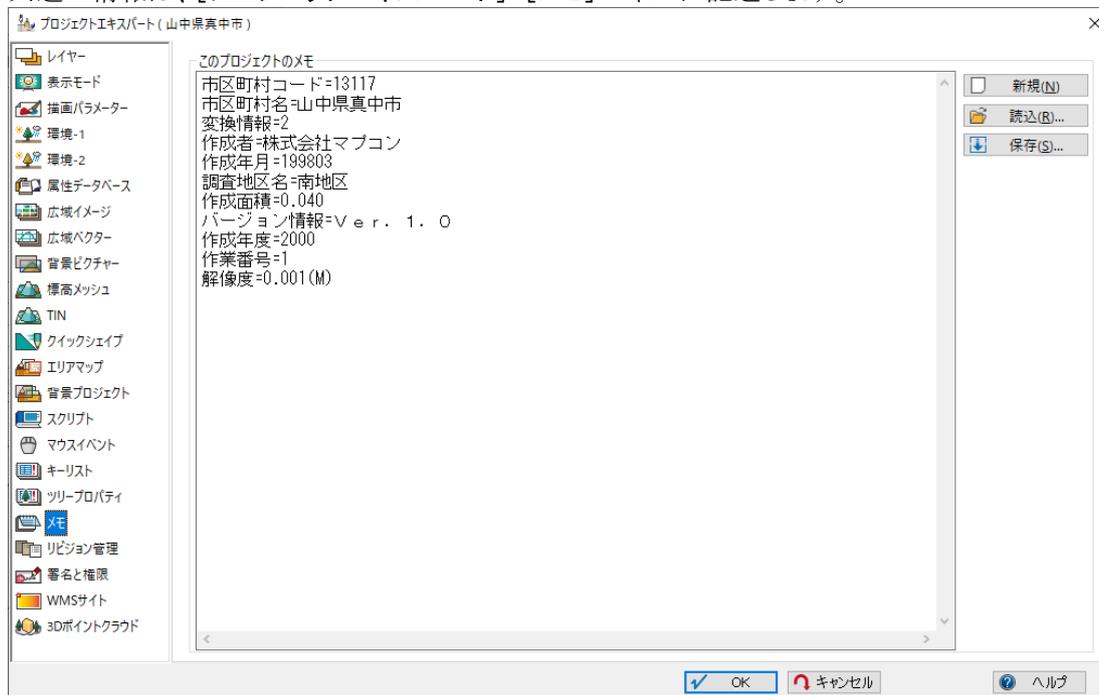
メタデータ DB は、他の DB、ベクターデータとのリンク関係がないため、メタデータファイル作成時以外は不要です。メタデータファイルを含めてエクスポート処理を行う時以外(通常 of データ利用、編集時)は、NDV ファイルとして保存し、プロジェクトから外しておいても差し支えありません。

特にメタデータ DB に長いデータ文字列が 1 つでもあると、プロジェクト読込みの負荷が非常に大きくなります(読込みに時間が掛かる)ので、注意が必要です。

2.5.その他

2.5.1.プロジェクトの[メモ]

共通の情報は、[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに記述します。



“=” の左辺は固定のキーワード、右辺に必要なデータを入力します。

行の順序は入れ替わってもかまいません。

また、行の先頭がキーワード以外ならば、任意のコメント等の記入が可能です。

※地区別情報ファイルの「測地系」は、各レイヤーの座標情報で設定するため、ここには記入しません

※「作成年度」、「作業番号」は、ファイル名の一部となります。

【例】

市区町村コード=12345

市区町村名=〇〇市

変換情報=2

作成者=〇〇〇〇〇

作成年月=YYYYMM

調査地区名=〇〇〇〇〇

作成面積=99.99

バージョン情報=Ver. 1.0

作成年度=YYYY

作業番号=9

プロジェクトの[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに記載された内容は、エクスポート時に下記のチェックが行われます。

市区町村コード=12345	→ 省略不可、ゼロ不可
市区町村名=〇〇市	→ 省略不可
変換情報=2	→ コード表によるチェック
作成者=〇〇〇〇〇	→ 省略不可
作成年月=YYYYMM	→ 省略不可、ゼロ不可
調査地区名=〇〇〇〇〇	→ 省略不可
作成面積=99.99	
バージョン情報=Ver. 1. 0	→ 省略不可
作成年度=YYYY	
作業番号=9	

※「地籍旧フォーマットデータ」インポートを行なった場合、コメントとして「地籍(旧)国土庁フォーマットからインポートしたデータです」が記載されます。

また、各々下記の様にデータが設定されます。

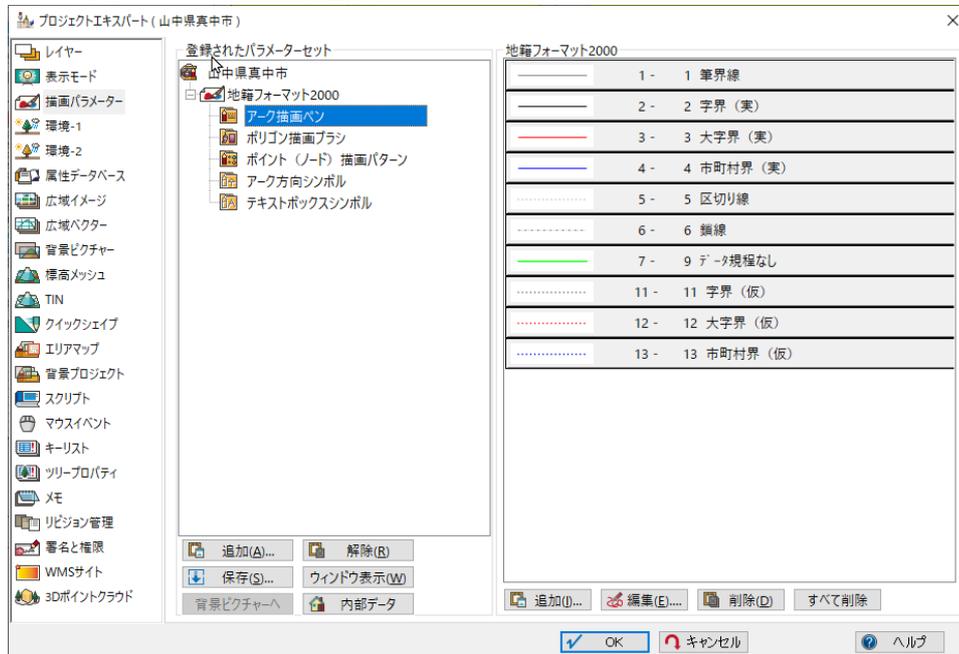
市区町村コード=12345	→ 市町村ヘッダレコードの市町村コード
市区町村名=〇〇市	→ 市町村ヘッダレコードの市町村名
変換情報=8	→ “8”固定
作成者=〇〇〇〇〇	→ 市町村ヘッダレコードの作成者名
作成年月=YYYYMM	→ 市町村ヘッダレコードの作成年月
調査地区名=	→ なし
作成面積=	→ なし
バージョン情報=Ver. 1. 0	→ “Ver. 1. 0”固定
作成年度=	→ なし
作業番号=	→ なし

2.5.2. 描画パラメーター

作成されたプロジェクトには、デフォルトとして描画パラメーターセット「地籍フォーマット 2000」が自動で登録されます。

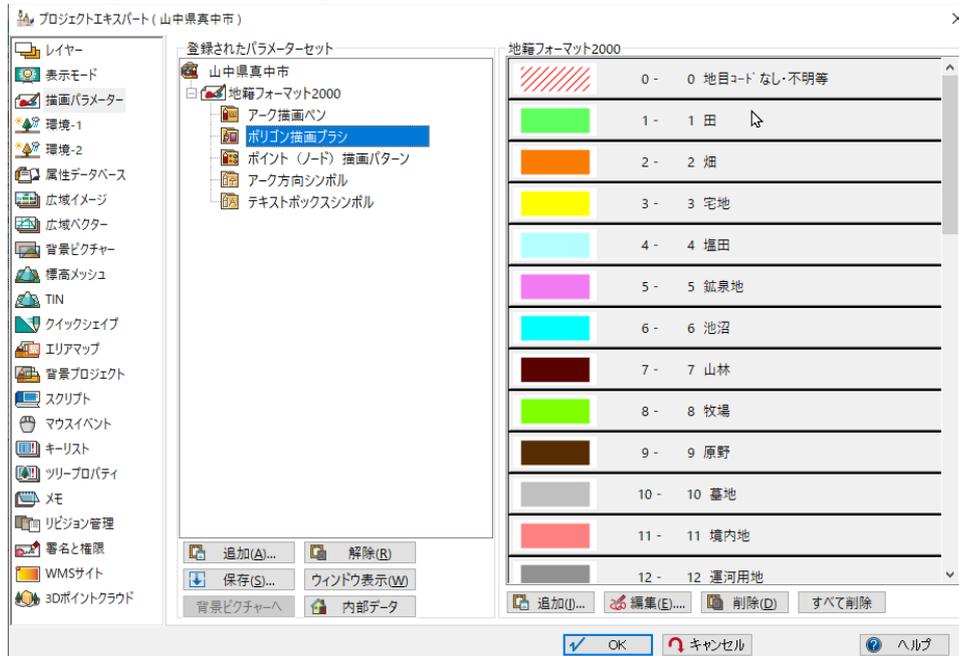
アーチ

『筆図形』レイヤーの「線分種別」で描画



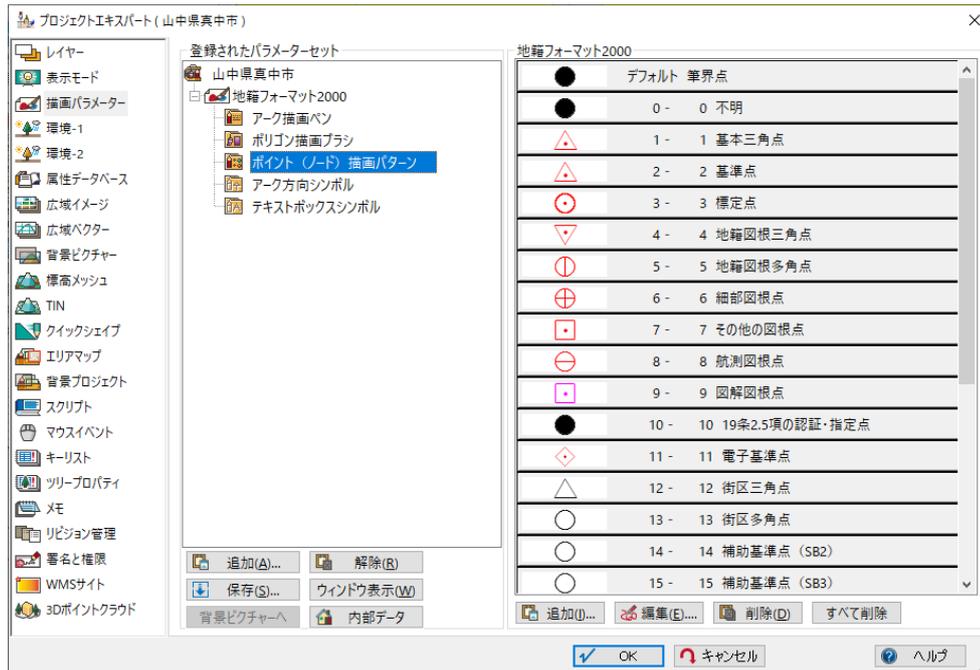
ポリゴン

『筆図形』レイヤーの「地目」で描画



ポイント

『図根点』レイヤーの「図根点種別」で描画



3. 機能

3.1.新規プロジェクト

[拡張]-[データ構築]-[地籍フォーマット 2000]-[地籍フォーマット 2000 新規プロジェクト]を実行すると、[地籍フォーマット 2000 新規生成]ダイアログボックスが表示されます。

各パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと新規プロジェクト(スケルトン)を作成します。

地籍フォーマット2000 新規生成

市区町村コード: 0123456 作成年度: 2021 作業番号: 128

市区町村名: マブコン町

プロジェクトの保存先: E:\地籍2000\まぶこん町.pcm

座標系: 09系 測地系: 世界測地系

解像度: 0.001 m 縮尺: 1 / 500

回線座標 (単位:m) 左下: 0 0 右上: 300 400

作成者: マブコンスタッフ

調査地区名: マブコン地区

作成面積: (単位:平方Km) 作成年月: 202104

メタデータを作成する (エクスポート時に使用)

市区町村コード

当該市区町村の総務省 全国地方公共団体コード(JIS X 0401(旧 JIS C 6260))に定められた都道府県コードを先行させた5桁を入力します。

***この項目は「省略不可」です。**

作成年度

作成年度を入力します。

省略した場合、0000(ゼロ)となります。

作業番号

同年度に複数地区の調査を行なった場合の識別番号を入力します。

省略した場合、0(ゼロ)となります。

※上記の3項目が地籍フォーマット2000ファイルのファイルベース名に相当する文字列として扱われ、プロジェクトの[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに転記されます(「市区町村コード」-「作成年度」-「作業番号」)。

市区町村名

市区町村名を入力します。ここでは省略可能です。

※「市区町村コード」～「市区町村名」までは、プロジェクトの[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに転記されますので、プロジェクト生成後に直接編集が可能です。

プロジェクトの保存先

保存先が指定されている場合、指示されたファイル名でプロジェクトファイルが作成されます。指定がない場合は場合、内部データとして作成されます。

※ファイルベース名と同名のフォルダーが存在しない場合は自動作成します。

ファイル名は以下の通りです。

- プロジェクトファイル:ファイルベース名.pcm
- ベクターデータファイル:レイヤー名.nav
- 属性 DB ファイル:DB 名.ndv

座標系

19 座標系のどの「系」に所属するかをプルダウンリストから選択します。

*この項目は「省略不可」です。

測地系

「日本測地系」、「世界測地系」のいずれかをプルダウンリストから選択します。

*この項目は「省略不可」です。

解像度

データの解像度(ベクターレイヤーで扱う最小単位を実距離の m 単位で指定)をプルダウンリストから選択します。

*この項目は「省略不可」です。

縮尺

縮尺を入力します。

*この項目は「省略不可」です。

作成者

データ作成者を入力します。

調査地区名

調査地区名を入力します。

作成面積

作成面積を入力します。

作成年月

作成年月を入力します。

※「作成者」～「作成年月」までは、プロジェクトの[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに転記されますので、プロジェクト生成後に直接編集が可能です。

「メタデータを作成する(エクスポート時に使用)」チェックボックス

ON の場合属性データベース「メタデータ」を作成します。

3.2. エクスポート

[拡張]-[データ構築]-[地籍フォーマット 2000]-[地籍フォーマット 2000 エクスポート]を実行すると、[地籍フォーマット 2000 エクスポート]ダイアログボックスが表示されます。

パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと PC-MAPPING のプロジェクトを地籍フォーマット 2000 ファイル群に変換します。

地籍フォーマット 2000 ファイル保存フォルダー

地籍フォーマット 2000 ファイルの出力先パス名を指定します。

*この項目は「省略不可」です。

ファイル名

地籍フォーマット 2000 ファイルのファイルベース名を入力します。

通常、[プロジェクトエクスポート]-[メモ]パネルに記述されている内容(「市区町村コード」+「作成年度」+「作成番号」)からファイル名が表示されるので、そのまま使用します。

*この項目は「省略不可」です。

「該当データが無いファイルも作成」チェックボックス

ON の場合: 数値地籍情報として既定されているファイル全てを作成します。データが無い場合は空のファイルとなります。

OFF の場合: 有効なデータがあるファイルだけを作成します。

「同名ファイルがある場合は上書き」チェックボックス

ON の場合: 同名ファイルに上書きします。

OFF の場合: 既存のファイルを“.BAK”を付加した名前に変更します。

「コード表のチェックを省略」チェックボックス

ON の場合: エラーメッセージ(EX0405:「コード表の範囲外です」(ワーニング)のチェックを省略します。

OFF の場合: データ仕様書にコード表が明記されている整数型項目について、記入値がコード表に含まれているかをチェックします。

➡「5.1.6. エクスポート」

「フィールド未記入のチェックを省略」チェックボックス

ON の場合: エラーメッセージ(EX0406:「必須項目が未記入です」(ワーニング)のチェックを省略します。

OFF の場合: データ仕様書で入力必須とされている文字型項目について、空白以外が記入されているかをチェックします。

ただし、文字列項目で重複チェックの対象となる項目は、このオプションに係わらず、常に未記入チェックを行い

ます。

また、重複チェックでエラー扱いの項目は、未記入もエラー扱いとなります。

➡「[5.1.6.エクスポート](#)」

「筆界点と図根点の整合チェックを省略」チェックボックス

ON の場合: 筆界点と図根点の整合チェックを省略します。

OFF の場合: 筆界点と図根点の整合チェックを行います。

エラーメッセージの保存先ファイル

エラーメッセージの保存ファイルを指定します。

「追加モードで記入する」チェックボックス

ON の場合: エラーメッセージを指定したファイルに追加で書き込みます。

OFF の場合: エラーメッセージを指定したファイルに上書きします。

○エクスポート特記事項

◆データの識別

データが存在するレイヤー、属性データベースは、「レイヤー名」、「属性データベース名」で捜します。また、属性フィールドは、ベクタ内部属性フィールド、属性データベースフィールドともに「フィールド名」で捜します。その際に、フィールドの「スタイル」は 検査していません。

全レイヤーの座標情報と図郭は一致している必要があります。

◆データの抽出

- ・ 筆図形ポリゴンは「筆 ID」で出力対象の要素を抽出します。「筆 ID」が 0(ゼロ)以下は無効データとなります。
- ・ 筆図形アークは、出力対象ポリゴンを構成するアークを出力します。
- ・ 筆界点ポイントと図根点ポイントは、全て出力対象となります。
- ・ 地図番号は、ポリゴンと属性データベースの「ID」で出力対象の要素を抽出します。

「ID」が 0(ゼロ)以下は無効データとなります。

属性データベースは、「筆 ID」、「ID」で出力対象の要素を抽出します。

または、抽出されたベクターデータから参照されるレコードを採用します。

「筆 ID」、「ID」が 0(ゼロ)以下は無効データとなります。

◆文字列フィールド

地籍フォーマット 2000 の既定では、文字型データは全て全角文字です。

その為、PC-MAPPING データ上の記述に関わらず、文字型データはすべて全角文字に変換して出力します。

◆地図番号の図郭座標について

地図番号レイヤーのポリゴンと地図番号 DB から、以下の優先順序で採用します。

- 1) ポリゴンの形状が凸四角形として認識できる場合、その 4 点の座標を採用。
- 2) ポリゴンが有効な場合、その外接四角形(ポリゴンの rect)の左下・右上を採用して、矩形を出力。
- 3) DB の左下・右上の座標フィールドが認識できる場合、そのフィールドの値を採用して、矩形を出力。ただし、フィールドの値の正当性はチェックしない。

矩形でない図葉をエクスポートするためには、地図番号レイヤーのポリゴンが必須。

3.3.地籍旧フォーマットデータ

3.3.1.地籍(旧)国土庁フォーマットインポート

[拡張]-[データ構築]-[地籍フォーマット 2000]-[地籍旧フォーマットデータ]を実行すると、[地籍(旧)国土庁フォーマットインポート]ダイアログボックスが表示されます。

パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと、地籍(旧)国土庁フォーマットデータを PC-MAPPING のプロジェクトに変換します。

！！注意！！

地籍(旧)国土庁フォーマットと地籍フォーマット 2000 では、データの構成が大幅に異なっております。

このキットは、地籍フォーマット 2000 の新規作成／エクスポート処理を行なうためのものです。

地籍(旧)国土庁フォーマットに対しましては、極力、データに対応付けできる範囲では取り込む仕様としておりますが、地籍フォーマット 2000 の要件を満たすものではありません。必ず編集作業が発生します。

地籍(旧)国土庁フォーマットファイル

(旧)国土庁フォーマットファイルのパス名を指定します。

 ボタンをクリックすると、「地籍(旧)国土庁フォーマットファイル」を指定する[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

*この項目は「省略不可」です。

地籍(旧)国土庁フォーマットファイル

保存先フォルダーが指定されている場合、指示されたフォルダーの下位フォルダーにプロジェクトファイルが作成されます。

指定がない場合は場合、内部データとして作成されます。

※ファイルベース名と同名のフォルダーが存在しない場合は自動作成します。

ファイル名は

- プロジェクトファイル:ファイルベース名.pcm
- ベクターデータファイル:レイヤー名.nav
- 属性 DB ファイル:DB 名.ndv

※作成されるプロジェクトのプロジェクト名は、『市区町村名』を採用します。

『市区町村名』が空白の場合は、入力ファイルのファイルベース名が採用されます。

[詳細設定(PCM データ)]

「属性 DB で所有者コードを全角文字で保持」チェックボックス

ON の場合:所有者コードを全角文字で保存します。

OFF の場合:半角文字に変換可能な文字は半角文字に置き換えて保存します。

「字データを小字データとしてインポートする」チェックボックス

ON の場合:字データを小字データとして取り込みます。

OFF の場合:字データを大字データとして取り込みます

「メタデータ DB を作成する」チェックボックス

ON の場合:メタデータ用の属性データベースを作成します。

OFF の場合:メタデータ用の属性データベースを作成しません。

※メタデータをエクスポートする場合は ON とします。

[文字コード・レコード区切り]

半角文字コード

使用している半角文字コードの種類を指示します。

●自動判定

デフォルトは、ファイルの先頭が半角「0」であるとして自動判定します。

ファイルの先頭が半角「0」以外は受け付けません。

●ASCII (JIS8)

半角文字コードを ASCII (JIS8)として処理します。

●EBCDIC

半角文字コードを EBCDIC として処理します。

全角文字コード

使用している全角文字コードの種類、または、全角文字を使用しないことを指示します。

●自動判定

デフォルトは自動判定です。

※自動判定では、まず先頭から 68 バイト目で全角文字の使用有無を判定します。

「Z」:全角文字を使用する

「Z」以外:全角文字を使用しない

全角文字を使用すると判定された場合は、ファイルの先頭から 7~8 バイト目(市区町村名の 1 文字目)で全角文字コードの種類を判定します。

●JIS

「Z」記入の有無によらず、JIS コードとして処理します。

●シフト JIS

「Z」記入の有無によらず、シフト JIS コードとして処理します。

●EUC

「Z」記入の有無によらず、EUC コードとして処理します。

●全角文字なし

「Z」記入の有無によらず、全角文字なしとして処理します。

レコード区切り

レコード毎の改行コード挿入の有無を指示します。

●自動判定

デフォルトは、自動判定です。

自動判定では、ファイルの先頭から 256 バイトまでに改行コードがあるかで判定します。

●改行コードなし

改行コードなしとして処理します。

●改行コードあり

改行コードまでを 1 レコードとみなして処理します。

例外処理として、規定のレコード長より長い場合、後ろは無視し、短い場合、不足分は半角空白が入っているとみなして処理します。

[所有者情報のフォーマット]

所有者情報の分け方を選択し、形式に応じて必要なパラメーターまたはオプションを指示します。

詳細は後述「[3.3.3.所有者情報の解析と編集について](#)」を参照して下さい。

分け方

所有者情報のコード、氏名、住所の分け方を以下の 3 種類から選択し、更に形式に応じて必要なパラメーターを指示します。

●コードのあとと氏名の後に区切り文字

区切り文字を指示。

●氏名の後だけに氏名の区切り文字(コードは固定長)

コードの長さとして区切り文字を指示。

●区切り文字なし(コードと氏名は固定長)

コードの長さとして氏名の長さを指示。

デフォルトは、形式が「コードのあとと氏名の後に区切り文字」で区切り文字が「*」(全角)です。

また、コードの桁数が一定であっても、コードの後に区切り文字がある形式の場合は「コードのあとと氏名の後に区切り文字」となります。

※所有者コードの長さを指示する形式(「●氏名の後だけに区切り文字」、「●区切り文字なし」を選択)の場合、下記のオプションが有効となります。

「コードは半角文字」チェックボックス

ファイル内で全て全角文字を使用する場合にのみ指定します。

所有者情報は全角文字フィールド(60 桁)ですが、特例としてコードが半角文字で入力されている場合に、ON にする事で指定されたバイト数を切り取り、半角文字列として変換し、所有者コードとして取り込む事ができます。

デフォルトは OFF です。

「コードの桁位置は連結したレコードでも固定」チェックボックス

1 筆の情報が複数レコードにわたる場合、所有者情報フィールド全体を連結するのが原則ですが、特例として、2 レコード目以降も所有者コードの桁位置を固定として、その次の桁位置から氏名と住所の続きが記入されている場合に、ON にします。

OFF の場合、所有者情報フィールドの先頭から続きが記入されているものとして取り込みます。

デフォルトは OFF です。

[その他]

「地番の先頭に空白挿入あり」チェックボックス

ON の場合:

地番文字列に先行する空白が含まれていて、その桁数が一定しない場合に、ON にします。
この場合マッチング処理で、地番文字列の先行する空白と末尾の空白を無視して比較します。
これにより、先行空白のためにマッチしないエラーデータを救済します。

OFF の場合:

デフォルト値。12 桁の文字列をそのまま比較します。

「字をまたがる筆界未定の組を 1 つの組とする」チェックボックス

ON の場合:

デフォルト値。字をまたがる筆界未定も、全てまとめて 1 組としているものとして処理します。
従って、筆属性の代表地番が他の字の地番という事があり得えます。
また、1 個の筆が複数の筆界未定の組に属することはありません。

OFF の場合:

字をまたがる筆界未定は字ごとの組を作って、相互に他の字の組の代表地番を持つものとして処理されま
す。

従って筆属性の代表地番はその筆と同じ字の地番のみとなります。

また、自分自身が代表地番である筆は、他の筆界未定の組のメンバーになる事もあります。

「認識できない全角文字を「？」に置き換える」チェックボックス

ON の場合:

「？」に置き換えます。

※全角文字を使用しないデータの場合、及び「半角文字コード=ASCII かつ全角文字コード=シフト JIS」
の組み合わせの場合は、このオプションは意味を持ちません。

OFF の場合:

デフォルト値。空白に置き換えます。

3.3.2.全角文字フィールド処理の特例

全角文字列で、連続する半角空白 2 個は全角空白 1 個とみなします。

半角文字コード=ASCII&全角文字コード=SJIS の組み合わせの場合に限り、全角文字フィールドについて以下のように処理します。

- ① 全角文字フィールド中に半角文字が現れた場合、全角文字に置き換える。
ただし、上記の通り、連続する半角空白 2 個は全角空白 1 個に置き換える。
- ② 予期しない文字コードを空白または"?"に置き換える処理を省略する。

以上により、全角文字フィールドに半角・全角混合で記入されていた場合は、全て全角文字に置き換えたデータとして処理されます。

ただし、文字として表示できないエラーデータがあった場合の結果は保証しません。

また、これらの特例処置は正常データの処理結果には影響しません。

3.3.3.所有者情報の解析と編集について

所有者情報フィールドには、所有者コード、氏名、住所の順に記入されているものとして「所有者情報のフォーマット」の指示に応じて分離・編集します。

デフォルトの設定は「正常データ」全てをサポートするものではありません。

処理しようとするデータ(現状は作成会社により、記述内容が異なります)に応じたフォーマットの選択・指示が必要です。

1. 全角文字と半角文字

- ① ファイルで全角文字を使用する場合、所有者情報フィールドは全角文字フィールドであり、全て全角文字が原則です。
区切り文字(例えば「*」)を使用する場合、区切り文字も全角文字とします。
特例として、オプション指示および「[3.3.2.全角文字フィールドの処理の特例](#)」により、一部半角文字の使用をサポートしています。
- ② ファイルで全角文字を使用しない場合は、全て半角文字として処理します。
区切り文字を使用する場合、区切り文字も半角文字とします。

2. 分け方と編集方法

「分け方」として 3 種類の形式をサポートします。

形式に応じて、必要なパラメーター、編集方法は以下の通りです。

所有者情報のフォーマット			
分け方			
<input checked="" type="radio"/> コードの後に氏名の後に区切り文字	区切り文字	*	
<input type="radio"/> 氏名の後だけに区切り文字 (コードは固定長)	コードの長さ	0	バイト
<input type="radio"/> 区切り文字無し (コードと氏名は固定長)	氏名の長さ	0	バイト
<input type="checkbox"/> コードは半角文字			
<input type="checkbox"/> コードの桁位置は連結したレコードでも固定			

◎コードの後に氏名の後に区切り文字

コードの後に氏名の後に区切り文字がある形式で、パラメーターとして、使用する区切り文字を指示します。

《使用する区切り文字》

空白以外の 1 文字を指示します。

ダイアログでは、全角・半角文字どちらでも入力可能ですが、2 文字以上入れても先頭 1 文字だけが有効となります。

全角文字が必要で半角文字が指示された場合は、全角文字に変換して使います。

半角文字が必要で全角文字が指示された場合は、半角文字に変換して使います。

ただし、半角文字に変換できない場合はエラーメッセージが表示されます。

《編集方法》

- ① 所有者情報全体を、全角または半角文字列として変換します。
- ② 最初の区切り文字の前までをコードとします。
- ③ 2 番目の区切り文字の前までを氏名とします。
- ④ 更に区切り文字がある場合は、3 番目の区切り文字の前までを住所とし、残りを土地所有形態コードとします。
また、3 番目の区切り文字が無い場合は、2 番目の区切り文字以降を住所とします。

◎氏名の後だけに氏名の区切り文字(コードは固定長)

コードが固定長でコードの後には区切り文字が無く、氏名の後に区切り文字がある形式で、パラメーターとして、コードの長さとして区切り文字を指示します。

《コードの長さ》

所有者情報フィールドの先頭から、氏名開始位置の前までの長さをバイト数で指示します。

《使用する区切り文字》

空白以外の 1 文字を指示します。

ダイアログでは、全角・半角文字どちらでも入力可能ですが、2文字以上入れても先頭1文字だけが有効となります。

全角文字が必要で半角文字が指示された場合は、全角文字に変換して使います。

半角文字が必要で全角文字が指示された場合は、半角文字に変換して使います。

ただし、半角文字に変換できない場合はエラーメッセージが表示されます。

《編集方法》

- ① コードは指示された長さ(バイト数)を切り取り、全角または半角文字列として変換します。
ファイルで全角文字を使用する場合でも、「コードは半角文字」オプションが ON の場合は半角文字列として扱います。
- ② コードの後、残りの文字列を全角または半角文字列として変換します。
- ③ 2番目の区切り文字の前までを氏名とします。
- ④ 更に区切り文字がある場合は、3番目の区切り文字の前までを住所とし、残りを土地所有形態コードとします。
また、3番目の区切り文字が無い場合は、2番目の区切り文字以降を住所とします。

◎区切り文字無し(コードと氏名は固定長)

コードと氏名が固定長で区切り文字を使用しない形式で、パラメーターとして、コードの長さ(バイト数)と氏名の長さ(バイト数)を指示します。

《コードの長さ》

所有者情報フィールドの先頭から、氏名開始位置の前までの長さをバイト数で指示します。

《氏名の長さ》

氏名開始位置から住所開始位置の前までの長さをバイト数で指示します。

《編集方法》

- ① コードは指示された長さ(バイト数)を切り取り、全角または半角文字列として変換します。
ファイルで全角文字を使用する場合でも、「コードは半角文字」オプションが ON の場合は半角文字列として扱います。
 - ② 氏名は、コードの後から指示された長さ(バイト数)を切り取り、残りの文字列を全角または半角文字列として文字コードを変換します。
 - ③ 残りを住所とします。全角、または半角文字列として文字コードを変換します。
- ※この形式では、土地所有形態コードは分離されません。

➤ コードの桁数が一定であってもコードの後に区切り文字がある形式は「◎コードの後に氏名の後に区切り文字」となります。

氏名の桁数/区切り文字についても同様です。

➤ 区切り文字で分ける形式で、区切り文字が見つからない場合は前のフィールドにデータは入ります。
例えば、「◎コードの後に氏名の後に区切り文字」を指定していながら、区切り文字が1個もない場合は、先頭からの文字列全てが「コード」とみなされます。

➤ 区切り文字を使用する形式で全角・半角文字が混在する場合は「半角文字コード=ASCII&全角文字コード=SJIS」の組み合わせの場合に限り、全角文字フィールド処理の特例(半角→全角の置き換え)が適用されます。

ただし、以下のようなケースでは区切り文字が正しく認識できません。

- ・ 全角区切り文字に対応する半角文字がデータ中にあった場合
- ・ 区切り文字として半角文字を使用し、それに対応する全角文字がデータ中にあった場合

3.3.4.新フォーマットとの対応

「地籍フォーマット 2000」と「(旧)国土庁フォーマットデータ」の対応は、以下の通りです。

ピンク色の部分は、インポート後に必ず結果の確認、修正、追加等の処理が必要と思われる項目です。

(1)ベクターデータ

①筆図形

アーク		筆図形レコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考	
1	線分種別	線分種別	0	その他(通常の筆界)	1	筆界線	
			1	実・字界線	2	実・字界線	
			2	実・大字界線	3	実・大字界線	
			3	実・市町村界線	4	実・市町村界線	
			4	仮・字界線	11	仮行政界線に該当する描画キー	そのままエクスポートすると規定の範囲外の値が発生
			5	仮・大字界線	12		
			6	仮・市町村界線	13		
			7以上	仮想線	5	区切り線	
2	右側筆 ID						
3	左側筆 ID						
ポリゴン		筆図形レコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考	
1	筆 ID						
2	大字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
3	小字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
4	大字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
5	小字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
6	地番	地番					リンクフィールド
7	地目	地目	コード変更なし				リンクフィールド

②筆界点

ポイント		筆界点番号レコードから作成 筆図形の構成点に該当する点が無かった場合は、自動作成する					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考	
1	筆界点名称	筆界点番号			入力データそのまま		
2	筆界点区分	なし			1	筆界点	
3	標識区分	埋標区分	0	非埋標	1	非埋標	
			1以上	埋標	2	筆界基準杭	自動作成時のデフォルト
4	材質区分	なし			0		
5	測量年月	なし			0		
6	測定方式	なし			0		
7	数値取得方法	なし			0		
8	図根点兼用	図根点等点番号			入力データそのまま		座標が一致する図根点があった場合、該当レコードから採用
9	筆界点表示区分	なし			0		

③ 図根点

ポイント		図根点等レコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	図根点名称	図根点等点番号			入力データそのまま		
2	図根点種別	図根点等種別			入力データそのまま		
3	等級	なし			0		
4	標識区分	埋標区分	0	非埋標	1	非埋標	
			1以上	埋標	2	本点	
5	材質区分	なし			0		
6	測量年月	なし			0		
7	測定方式	なし			0		
	仮行政界線	データなし、空のレイヤーを作成					

④ 地図番号

アーク・ポリゴン (1アーク1ポリゴン形式)		図葉コードレコードから作成					
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	地図番号	地図番号					リンクフィールド

(2) 属性データベース

① 地図番号

地図番号		図葉コードレコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	ID						
2	地図番号	地図番号			入力データそのまま		
3	図葉コード	図葉コード			入力データそのまま		参考用
4	縮尺				図葉コードから決まる値		
5	実施機関名	なし			なし		
6	実施区分	なし			なし		
7	新旧区分	なし			1	既存の区画番号	
8	左下 X(m)				図葉コードから決まる値		
9	左下 Y(m)				図葉コードから決まる値		
10	右上 X(m)				図葉コードから決まる値		
11	右上 Y(m)				図葉コードから決まる値		
12	調査年月 1	分割 1 の調査年月			入力データそのまま		
13	測図年月 1	分割 1 の測図年月			入力データそのまま		
14	調査年月 2	分割 2 の調査年月			入力データそのまま		
15	測図年月 2	分割 2 の測図年月			入力データそのまま		調査年月 3 以降も同様

② 字コードテーブル

字コードテーブル		字名コードレコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	ID						
2	大字コード	字コード、または、なし			入力データそのまま、または 0		インポート実行時の指示により、字コードと字名を大字または小字のどちらか一方に取り込む。他方は

					データなしとして設定。
3	小字コード	字コード、または、なし			入力データそのまま、または 0
4	名称	字名			入力データそのまま

③筆 ID テーブル

筆 ID テーブル		筆属性レコード、筆界未定レコードから作成					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	筆 ID						
2	大字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
3	小字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
4	大字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
5	小字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
6	地番	地番				入力データそのまま	

④筆属性

筆属性		筆属性レコードから作成、筆属性ヘッダと筆図形ヘッダレコードも参照					
		筆界未定レコードに代表または構成筆として含まれるものは除く。→筆界未定 DB へ 筆界未定の 1 組に対して、筆界未定・仮地番のレコードを作成。字コード等は代表筆のレコードから採用する。					
		旧フォーマットのデータ			設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	筆 ID						
2	大字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
3	小字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
4	大字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
5	小字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
6	地番	地番				入力データそのまま	
7	精度区分	精度区分	コード変更なし			入力データそのまま	該当する筆図形ヘッダレコードから採用
8	図解法・数値法区分	測量方法	1	図解法による地上法	1	図解法	該当する筆図形ヘッダレコードから採用
			2	数値法による地上法	2	数値法	
			3	航測数値法	3	航測数値法	
			4	正射写真図法	4	正射写真図法	
			5	図解法による併用法	1	図解法	
			6	数値法による併用法	2	数値法	
9	筆状態	筆状態	1	現地確認不能	2	現地確認不能	1~4 の和の場合、値の小さい順に優先
			2	筆界未定	3	筆界未定地	
			4	新規登録	4	表示登記	
			上記以外				
			筆・長狭物区分=1		6	長狭物	
			上記以外		1	筆	
10	調査年月	調査年月				入力データそのまま	該当する筆属性ヘッダまたは筆図形ヘッダレコードから採用
11	測図年月	測図年月				入力データそのまま	該当する筆図形ヘッダレコードから採用

12	地目	地目			入力データそのまま	筆界未定地・仮地番のレコードでは、以降、土地所有形態までのデータなし
13	地積(m ²)	地積			入力データそのまま	
14	所有者コード	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
15	所有者カナ	なし			なし	
16	所有者名	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
17	所有者郵便番号	なし			なし	
18	所有者住所	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
19	共有者有無	なし			0	
20	土地利用種目	土地利用種目	コード変更なし		入力データそのまま	筆属性レコードの第2レコードの「地目」欄
21	土地所有形態	土地所有形態	コード変更なし		入力データそのまま	所有者情報を解析して分離できる場合のみ
22	地図番号数	地図番号数				
23	地図番号	地図番号				リンクフィールド
24	共有者	なし				リンクフィールド
25	筆界未定構成筆・地番					リンクフィールド

⑤共有者

共有者	データなし、空のDBを作成
-----	---------------

⑥筆界未定

筆界未定	筆界未定レコードと該当する筆属性レコードから作成、筆属性ヘッダと筆図形ヘッダレコードも参照 旧フォーマットの筆界未定の1組に対して、仮地番を発生させる。 筆界未定の代表とメンバーを区別しないで「構成筆」とする。 従って、字を跨る筆界未定地について、規定どおりに、字ごとの組を作って相互参照している形式では、同一の筆が当DBで複数回「構成筆」として現れる可能性がある。						
	旧フォーマットのデータ				設定するデータ		
	フィールド名	アイテム	コード	コードの意味	設定値	新コードの意味	備考
1	筆界未定地・筆ID						仮地番のID
2	筆界未定地・大字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
3	筆界未定地・小字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
4	筆界未定地・仮地番	地番					リンクフィールド
5	未定地番数						
6	SEQ						
7	筆界未定構成筆・筆ID						筆界未定の代表またはメンバーのID
8	大字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
9	小字コード	字コード、または、なし					リンクフィールド
10	大字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
11	小字名称	字名、または、なし					リンクフィールド
12	地番	地番					リンクフィールド
13	筆状態	筆・長狭物区分	1	長狭物	3	長狭物	
			上記以外		1	筆	

14	調査年月	調査年月			入力データそのまま	該当する筆属性ヘッダまたは筆図形ヘッダレコードから採用
15	地目	地目			入力データそのまま	
16	地積(m ²)	地積			入力データそのまま	
17	所有者コード	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
18	所有者カナ	なし			なし	
19	所有者名	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
20	所有者郵便番号	なし			なし	
21	所有者住所	所有者情報			所有者情報を解析して分離	
22	共有者有無	なし			0	
23	共有者	なし				リンクフィールド

⑦メタデータ

メタデータ	データなし、新規プロジェクト作成と同様のDBを作成
-------	---------------------------

4. コマンド処理

「地籍フォーマット 2000 データ作成キット」の各メニューは、コマンドラインバー（[ワークスペース]-[コマンドバー]-[コマンドラインバー]で表示切り替えができます）からの入力、または OLEAutomation の DoCmd で実行することができます。

（以下△は半角スペース）

①新規プロジェクトの作成

Chi20New△地籍フォーマット 2000 ファイルのファイル名△出力先フォルダー

※ファイル名を分解して、市区町村コード、作成年度、作業番号を得ます

※縮尺、図郭座標などはダイアログでの指定が必須です

②エクスポート

Chi20Export△出力先フォルダー

※ファイル名はプロジェクトのメモから自動設定されます

③地籍旧フォーマットデータ

ChiOldImport△旧国土庁フォーマットファイルパス名△出力先フォルダー

いずれも、パラメーターは省略可です。

必要なパラメーターが揃わない場合は、メニューから実行する場合と同様のダイアログボックスが表示されます。

5. エラーについて

各処理においてエラーがあった場合、Output ウィンドウ([ワークスペース]-[コマンドバー]-[アウトプットバー]で表示切り替えができます)にエラーメッセージが表示されます。

※エクスポート時、「エラーメッセージの保存先ファイル」が設定されている場合は、指定ファイルに出力されます。

➡「3.2.エクスポート」

エラー表示の一般形式

XX9999: ○○○○○○○○○ (abc defg hijklmn) (xxxxXYyyyy) [rec:9999]
 エラーコード エラーメッセージ キー属性 エラーに関連する情報 レコード番号

※「キー属性」とは、アイテムを特定する項目です。

例えば、インポートではファイル名、大字・小字コードと地番などです。

※「エラーに関連する情報」とは、エラーと判断される要因です。

例えば、形状については、座標値などです。

※複数アイテムの関連エラーでは、「キー属性」以降を列記します。

エラーコードの先頭 2 文字は処理に応じて、下記の表示となります。

IN:	インポート(1 地区)
NP:	新規プロジェクト作成
EX:	エクスポート
IM:	複数地区一括インポート
IK:	(旧)国土庁フォーマットからのインポート

「レベル」欄の記号

○:	ワーニングまたはコメント。 処理結果に問題はないと考えられます。
△:	データエラー。 可能な範囲で処理を続行しますが、処理結果は正常ではないと考えられます。
×:	処理不可能なエラー。処理を中止します。 この場合、プロジェクトの作成は行われません。

5.1.エラー一覧

5.1.1.共通

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
IN0200	有効なデータがありません。	×	全体の処理を終わって、有効なデータがありませんでした。
IM0200			
IK0200			
EX0200			
IN0201	ファイルをオープンできません。	△	入力ファイルをオープンできません。 該当データ無しとして処理します。
IM0201			
IK0201		×	入力ファイルをオープンできません。処理できません。 地籍フォーマット 2000 ファイルは、一旦、一時的なファイル名で作成してから、正規の名称に変更しますが、その一時的な名称のファイルが書き込みモードでオープンできません。
EX0201			
EX0204		×	地籍フォーマット 2000 ファイルを作成できません。
EX0205	ファイル名変更失敗しました。	×	地籍フォーマット 2000 ファイルは、一旦、一時的なファイル名で作成してから、正規の名称に変更しますが、その名称変更ができません。
IN0206	予期しない座標系番号です。	△	座標系番号の値が 1～19 の範囲外です。
NP0206			

IM0206			便宜的に9に置き換えて処理します。
IK0206			新規作成では、ダイアログで選択するため、発生しないはず。
IN0207	有効な座標情報がありません。図郭を設定できません。	×	レイヤーの座標情報を設定できないため処理できません。
NP0207			
IM0207			
IK0207			

5.1.2.インポート・複数地区一括インポート・(旧)国土庁フォーマットからのインポート

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
IN0208	無効なレコードです。	△	このレコードを無視します。
IM0208			
IN0209	読み込み途中でファイルが終わりました。	△	
IM0209			
IN0210	筆・長狭物図形情報の筆界点名称に該当する筆界点情報が見つかりません。	△	この図形を無視します。 (座標が不明のため処理不能)
IM0210			
IN0211	仮行政界情報の点名称に該当する筆界点情報が見つかりません。	△	この図形を無視します。 (座標が不明のため処理不能)
IM0211			
IN0212	筆属性情報に該当する筆・長狭物図形情報が見つかりません。	△	筆状態コードが2,4,7,8の場合は、形状は存在しないものとして、このメッセージはありません。
IM0212			
IN0213	筆・長狭物図形情報に該当する筆属性情報が見つかりません。	△	ID～地番だけを保持するDBレコードを作成します。
IM0213			
IN0214	筆属性情報に該当する共有者情報が見つかりません。	△	
IM0214			
IN0215	筆界未定構成筆属性情報に該当する共有者情報が見つかりません。	△	
IM0215			
IN0216	共有者情報に該当する筆属性情報または筆界未定構成筆属性情報が見つかりません。	△	
IM0216			
IN0217	筆属性情報に該当する筆界未定構成筆属性情報が見つかりません。	△	
IM0217			
IN0218	筆界未定構成筆属性情報に該当する筆属性情報が見つかりません。	△	
IM0218			
IN0219	筆属性情報に該当する地図番号情報が見つかりません。	△	地図番号だけを保持するDBレコードを作成します。
IM0219			
IN0220	無効な筆図形です。	△	構成点が不足などにより、ポリゴンを構成できません。 この図形を無視します。
IM0220			
IK0220			
IN0221	筆図形が閉じていません。	△	線形としては保持しますが、ポリゴン生成はできません。
IM0221			
IK0221			
IN0222	1つの筆図形の中で重複する線分があります。	△	一方を消去します。 ただし、逆方向で重複する線分の組は、中抜けポリゴンへ往復する仮想線とみなして、両方消去します。 その場合はメッセージはありません。
IM0222			
IK0222			
IN0223	筆図形の間でアーク左右属性の矛盾があります。	△	筆図形の間で重複する線分を消去する際に、左右の属性に矛盾があります。 どの属性値が採用されるかは処理順序に依存します。 3本以上の線分が一致する場合、このエラーが発生する可能性があります。 この結果、ポリゴン生成エラーが発生すると考えられます。
IM0223			
IK0223			
IN0230	ポリゴン生成でエラーがあります。	△	可能な範囲でポリゴンを生成していますが、形状と属性のチェックと修正の後、再度ポリゴン生成処理が必要です。
IM0230			
IK0230			
IN0232			

IM0232	ポリゴン属性の矛盾があります。	△	ポリゴン生成後、アーク(筆図形の線形)左右の属性からポリゴン属性を決定する際に、ポリゴン構成アークの間で属性が矛盾するものがあります。 暫定的に、ポリゴン毎に構成アークの中でアーク数の多い属性を採用していますが、形状と属性のチェックと修正が必要です。
IK0232			
IN0234	大字・小字コードと名称に矛盾があります。	△	同じ大字・小字コードで名称が異なるものがあります。 最初に処理した名称を採用します。
IM0234			
IN0235	メタデータを解析できません。	△	このメタデータファイルは処理できません。 個々のエラー箇所についてのメッセージはありません。
IM0235			
IN0236	予期しないメタデータの構成です。	△	このメタデータファイルは処理できません。 個々のエラー箇所についてのメッセージはありません。
IM0236			
IN0240	キー項目の値が重複しています。	△	「大字・小字・地番」、「筆界点名称」などマッチングキーとなる項目の値(ユニークであると期待される)が重複しています。 インポート結果のリンク関係は正しくないと考えられます。 「筆界点名称」が重複した場合は形状が正しく認識できません。 オプションにより個別の詳細メッセージを表示。 指示が無いときは重複件数を表示します。 複数地区一括インポートでは、項目別のエラーコードが設定されている項目については項目別のエラーコードを優先し、この IM240 は対象外です。
IM0240			
IN0241	筆界点情報の図根点等の兼用に該当する	△	
IM0241	図根点情報が見つかりません。		
IN0242	筆界点情報の図根点等の兼用に該当する	△	
IM0242	図根点と座標が一致しません。		
IN0243	筆界点情報の図根点等の兼用が未記入	△	
IM0243	で、座標が一致する図根点情報があります。		

5.1.3.複数地区一括インポート

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
IM0502	一調査年度・地区内で地図番号情報が重複しています。	△	地図番号と図郭座標(左下と右上)が一致するデータが複数ある場合、1個を保存して他を破棄します。 地図番号が同じで図郭座標が異なる、または、図郭座標が同じで地図番号が異なるデータがある場合、そのまま保存します。
IM0503	一調査年度・地区内で筆界点情報が重複しています。	△	XY座標が同じ点が複数ある場合、1個を保存して他を破棄します。 筆界点名称が同じでXY座標が異なる点が複数ある場合、名称を変更して保存します。ただし、その名称が筆図形、仮行政界線の構成点として参照されている場合はインポート結果の形状が異常になる可能性があります。
IM0504	一調査年度・地区内で図根点情報が重複しています。	△	図根点名称とXY座標が一致する点が複数ある場合、1個を保存して他を破棄します。 図根点名称が同じでXY座標が異なる、または、XY座標が同じで図根点名称が異なる点が複数ある場合、そのまま保存します。
IM0505	一調査年度・地区内で大字・小字名称が重複しています。	△	大字名称が同じで大字コードが異なる大字データが複数ある場合、1個を保存して他を破棄します。 大字の中で、小字名称が同じで小字コードが異なる小字データが複数ある場合、1個を保存して他を破棄します。
IM0511	調査年度・地区の間で地区別情報が整合しません。	× △	市区町村コード、市区町村名、座標系、測地系が一致しません。 便宜的に、最初に処理したデータを採用します。ただし、座標系、測地系が不一致の場合はインポート結果の形状

			は無意味と考えられます。
IM0512	調査年度・地区の間で地図番号情報が整合しません。	△	地図番号が同じで図郭座標が異なる、または、図郭座標が同じで地図番号が異なるデータがあります。そのまま保存します。
IM0514	調査年度・地区の間で図根点情報が整合しません。	△	図根点名称が同じでXY座標が異なる、または、XY座標が同じで図根点名称が異なる点があります。そのまま保存します。
IM0516	筆界点名称を再設定しました。	○	
IM0517	大字・小字コードを再設定しました。	○	

5.1.4.(旧)国土庁フォーマットからのインポート

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
IK0134	所有者情報の区切り文字が認識できません。空白以外の1文字を指示してください。	×	所有者情報のフォーマットについて、パラメーターが認識できない、または、パラメーターの値が適切でないため処理できません。 ダイアログの指示を確認して下さい。
IK0135	所有者情報の区切り文字が認識できません。空白以外の半角文字1文字を指示してください。	×	
IK0136	所有者コードの長さが奇数です。全角文字は2バイト単位で指示してください。	×	
IK0137	所有者氏名の長さが奇数です。全角文字は2バイト単位で指示してください。	×	
IK0138	所有者コードの長さが長すぎます	×	
IK0303	先頭レコードが読めません。	×	
IK0304	半角文字コードが判定できません。	×	自動判定できません。ダイアログで指示して下さい。
IK0305	全角文字コードが判定できません。	×	自動判定できません。ダイアログで指示して下さい。
IK0307	先頭レコード不正。	×	このファイルは処理できません。
IK0311	識別コード不正。	△	このレコードを無視します。
IK0312	識別コードの出現順が不正。	△	識別コードに従って処理します。
IK0313	図葉コードを解析できません。	△	図葉コードの形式エラー、または、各桁の数値が想定される範囲外です。 地図番号DBで、図葉コードはそのまま保持します。 地図番号レイヤーのアーキは作成できません。
IK0314	変換できない全角文字があります。	△	全角文字列中に予期しない文字コードが現れました。 指示により全角空白または全角「?」に置き換えます。 文字コードがASACII&シフトJISの場合は発生しません。
IK0316	筆界点座標が重複しています。	△	同じ座標が連続しています。 座標の重複を取り除き、線分種別コードは後の点を採用します。
IK0321	筆属性ヘッダに該当する筆図形ヘッダが見つかりません。	△	
IK0322	筆図形ヘッダに該当する筆属性ヘッダが見つかりません。	△	
IK0323	筆属性の図葉コードに該当する図葉コードレコードが見つかりません。	△	図葉コードだけを保持するDBレコードを作成します。
IK0324	筆属性の代表地番に該当する筆属性が見つかりません。	△	
IK0325	筆界未定の代表地番が重複しています。	△	
IK0326	筆界未定の未定地番が重複しています。	△	ただし、字を跨る筆界未定地について、字ごとの組を作って相互参照している形式では、その筆自身代表地番である場合は、メンバーとして複数回現れる可能性があります。 その場合、メッセージはありません。
IK0327	筆界未定に該当する筆属性の筆状態が整合しません。	△	

IK0328	筆界未定に該当する筆属性の代表地番が一致しません。	△	
IK0329	筆界未定の代表地番に該当する筆属性が見つかりません。	△	
IK0330	筆界未定の未定地番に該当する筆属性が見つかりません。	△	
IK0331	筆属性に該当する筆界未定が見つかりません。	△	
IK0333	筆図形に該当する筆属性が見つかりません。	△	
IK0334	筆属性に該当する筆図形が見つかりません。	△	
IK0342	所有者情報が空です。	△	
IK0343	所有者情報のコードの後の区切り文字が見つかりません。全て所有者コードとみなします。	△	
IK0344	所有者情報の氏名以降が空です。	△	
IK0345	所有者情報の氏名の後の区切り文字が見つかりません。全て所有者氏名とみなします。	△	

5.1.5.新規プロジェクト作成

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
NP0123	市区町村コードが認識できません。	×	必須パラメーターが認識できないため処理できません。ダイアログの指示を確認して下さい。
NP0125	座標系が認識できません。	×	
NP0126	測地系が認識できません。	×	
NP0127	縮尺が認識できません。	×	
NP0128	図郭座標が認識できません。	×	
NP0129	解像度が認識できません。	×	
NP0130	縮尺が標準ではありません。	○	
NP0131	測地系、縮尺と図郭座標が整合しません。	○	
NP0132	地図番号のデフォルト・データは作成できません。	○	地図番号レイヤーと地図番号 DB のデフォルト・データ作成を省略します。 (NP0130 または NP0131 が先に発生しているはず)

5.1.6.エクスポート

エラーコード	エラーメッセージ	レベル	備考
EX0400	データエラーのためエクスポートできません。	×	エクスポートできなかった時、処理の最後にこのメッセージを表示。 個々のエラーの内容についてのエラーメッセージが先に発生しているはず。
EX0401	レイヤーが見つかりません。	×	レイヤー名で捜します。 該当データ無しとして処理します。 本来データが無いレイヤーならば問題ありません。
		△	
		○	
EX0402	属性DBが見つかりません。	×	属性 DB 名で捜します。 該当データ無しとして処理します。 本来データが無い属性 DB ならば問題ありません。 メタデータDBについては、このメッセージは表示しません。
		△	
		○	
EX0403	属性フィールドが見つかりません。	×	フィールド名で捜します。 このレイヤーまたは属性 DB は無効とします。 本来データが無いレイヤーまたは属性 DB ならば問題ありません。 必須フィールド以外では、このメッセージはありません。
		△	
		○	

EX0404	レイヤーの座標情報が整合しません。	×	各レイヤーの座標情報、図郭を一致させて下さい。
EX0405	コード表の範囲外です。	△	コード表が明記されている整数型項目について、記入値がコード表に含まれているかをチェックします。
EX0406	必須項目が未記入です。	×	入力が必要の文字型項目について、空白以外が記入されているかをチェックします。 記入内容の妥当性はチェックできません。 筆界点名称、地番の未記入は不可(エラー扱い)に変更。その他の項目はワーニング。
		△	
EX0407	筆属性 DB レコードに該当する筆 ID テーブル DB レコードが見つかりません。	×	
EX0408	筆界未定 DB レコードに該当する筆 ID テーブル DB レコードが見つかりません。	×	
EX0409	筆 ID テーブル DB レコードに該当する筆属性 DB レコード、筆界未定 DB レコードがどちらも見つかりません。	△ ○	このレコードを無視します。 エラー扱いからワーニングに変更。
EX0410	筆図形ポリゴン構成アークの補間点に該当する筆界点ポイントが見つかりません。	×	XY 座標値で捜します。 筆界点名称のリストを作成できないため処理できません。
EX0411	仮行政界アークの補間点に該当する筆界点ポイントが見つかりません。	×	XY 座標値で捜します。 筆界点名称のリストを作成できないため処理できません。
EX0412	筆図形ポリゴンに該当する筆属性 DB レコードが見つかりません。	×	筆図形に対応する筆属性は必須。
EX0413	筆属性 DB レコードに該当する筆図形ポリゴンが見つかりません。	△	筆図形の無い筆属性の存在は許容しています。 筆状態コードが 2,4,7,8 の場合は、形状は存在しないものとして、このメッセージはありません。
EX0414	筆属性 DB レコードに該当する筆・地図番号対応表 DB レコードが見つかりません。	×	筆属性に該当する筆図形が無い場合は、該当する地図番号も無いものとして、このメッセージはありません。
EX0415	筆・地図番号対応表 DB レコードに該当する筆属性 DB レコードが見つかりません。	△	このレコードを無視します。
EX0416	地図番号ポリゴンに該当する地図番号 DB レコードが見つかりません。	△	このポリゴンを無視します。
EX0417	地図番号 DB レコードに該当する地図番号ポリゴンが見つかりません。	×	DB レコードに図郭座標がある場合、このメッセージはありません。
EX0418	筆属性 DB レコードの共有者情報の有無が「有」で、該当する共有者 DB レコードが見つかりません。共有者情報の有無を置き換えます。	△	
EX0419	筆界未定 DB レコードの共有者情報の有無が「有」で、該当する共有者 DB レコードが見つかりません。共有者情報の有無を置き換えます。	△	
EX0420	共有者 DB レコードに該当する筆属性 DB レコード、筆界未定 DB レコードがどちらも見つかりません。	×	
EX0421	共有者 DB レコードに該当する筆属性 DB レコードの共有者情報の有無が「無」です。共有者情報の有無を置き換えます。	△	
EX0422	共有者 DB レコードに該当する筆界未定 DB レコードの共有者情報の有無が「無」です。共有者情報の有無を置き換えます。	△	
EX0423	筆属性 DB レコードの筆状態が「筆界未定地」で、該当する筆界未定 DB レコードが見つかりません。	×	
EX0424	筆界未定 DB レコードに該当する筆属性 DB レコードが見つかりません。	×	
EX0425	筆界未定 DB レコードに該当する筆属性 DB レコードの筆状態が「筆界未定地」ではありません。	△	

EX0426	メタデータ DB に有効なレコードがありません。	△	
EX0427	レイヤーの座標情報が直角座標系ではありません。	×	
EX0428	筆図形に使用されないアークがあります。無視します。	△ ○	
EX0440	筆 ID テーブル DB の同一の大字・小字コードの中で地番が重複しています。	×	筆属性 DB から参照されるレコード間の重複は不可。筆界未定 DB から参照されるレコードではワーニング扱いで許容しています (EX0441, EX0442, EX0443, EX0444 と対応)。
EX0441	筆属性 DB の筆 ID が重複しています。	△	
EX0442	筆界未定 DB の筆界未定構成筆・筆 ID が重複しています。	×	筆図形ポリゴンの筆 ID だけが重複した場合は EX0412 が発生。
EX0443	筆界未定 DB の筆界未定地・筆 ID と筆界未定構成筆・筆 ID が重複しています。	△	
EX0444	筆属性 DB の筆 ID と筆界未定 DB の筆界未定構成筆・筆 ID が重複しています。	△	
EX0445	筆界点ポイントの筆界点名称が重複しています。	×	
EX0446	地図番号 DB の地図番号が重複しています。	△	
EX0447	図根点ポイントの図根点名称が重複しています。	△	
EX0448	筆界点ポイントの図根点兼用に該当する図根点ポイントが見つかりません。	△	
EX0449	筆界点ポイントの図根点兼用に該当する図根点ポイントと座標が一致しません。	△	
EX0450	筆界点ポイントの図根点兼用が未記入で、座標が一致する図根点ポイントがありません。	△	

6. 更新履歴

2023.04.11	ドキュメント改定。 インポートスキーマ対応。
------------	---------------------------